

新型コロナウイルス感染症の 県内発生について

その16

～第六波の状況～

和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

2022年3月28日



感染状況

和歌山県内の新型コロナウイルス感染症 感染動向の推移

令和4年3月27日
発表分まで

第一波

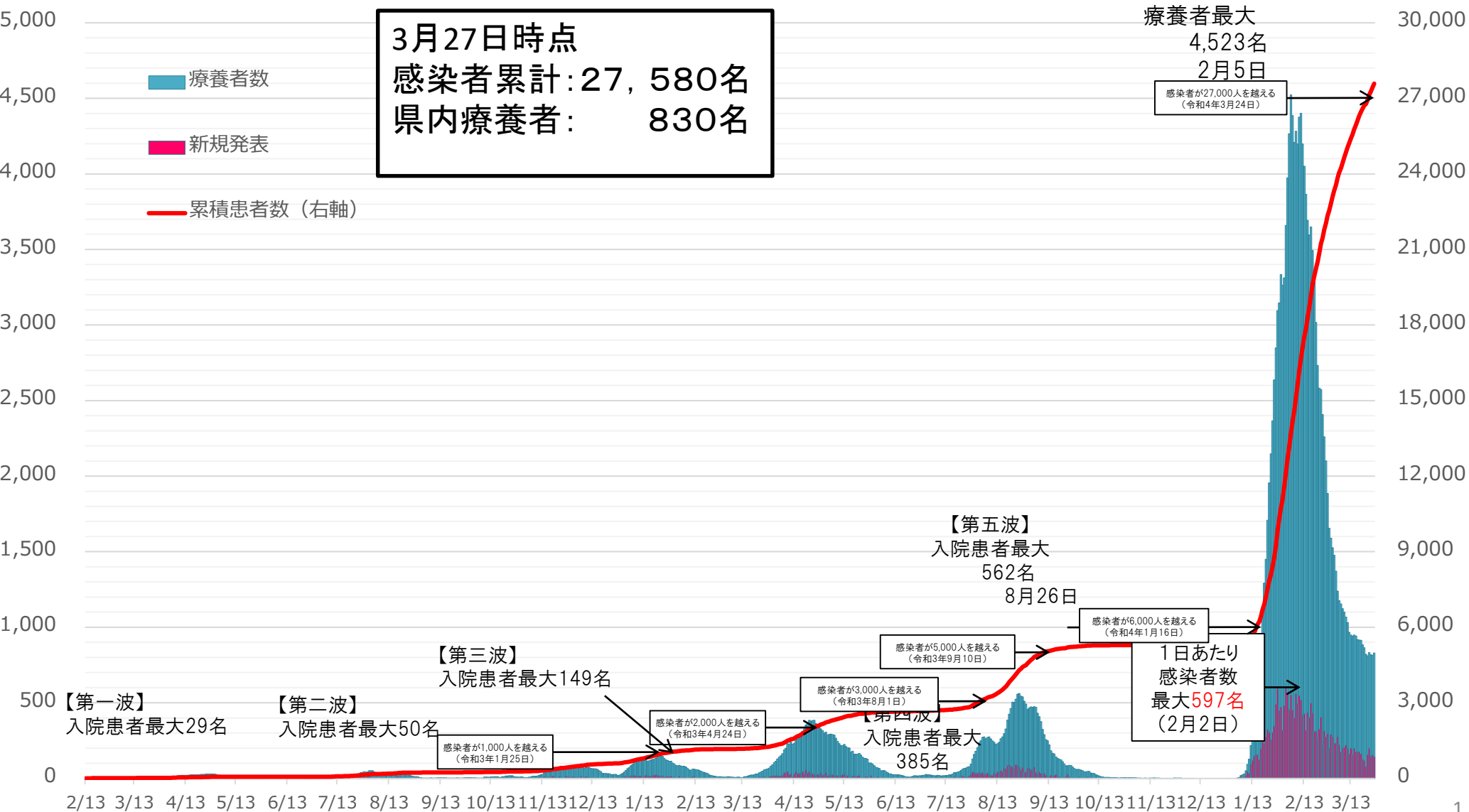
第二波

第三波

第四波

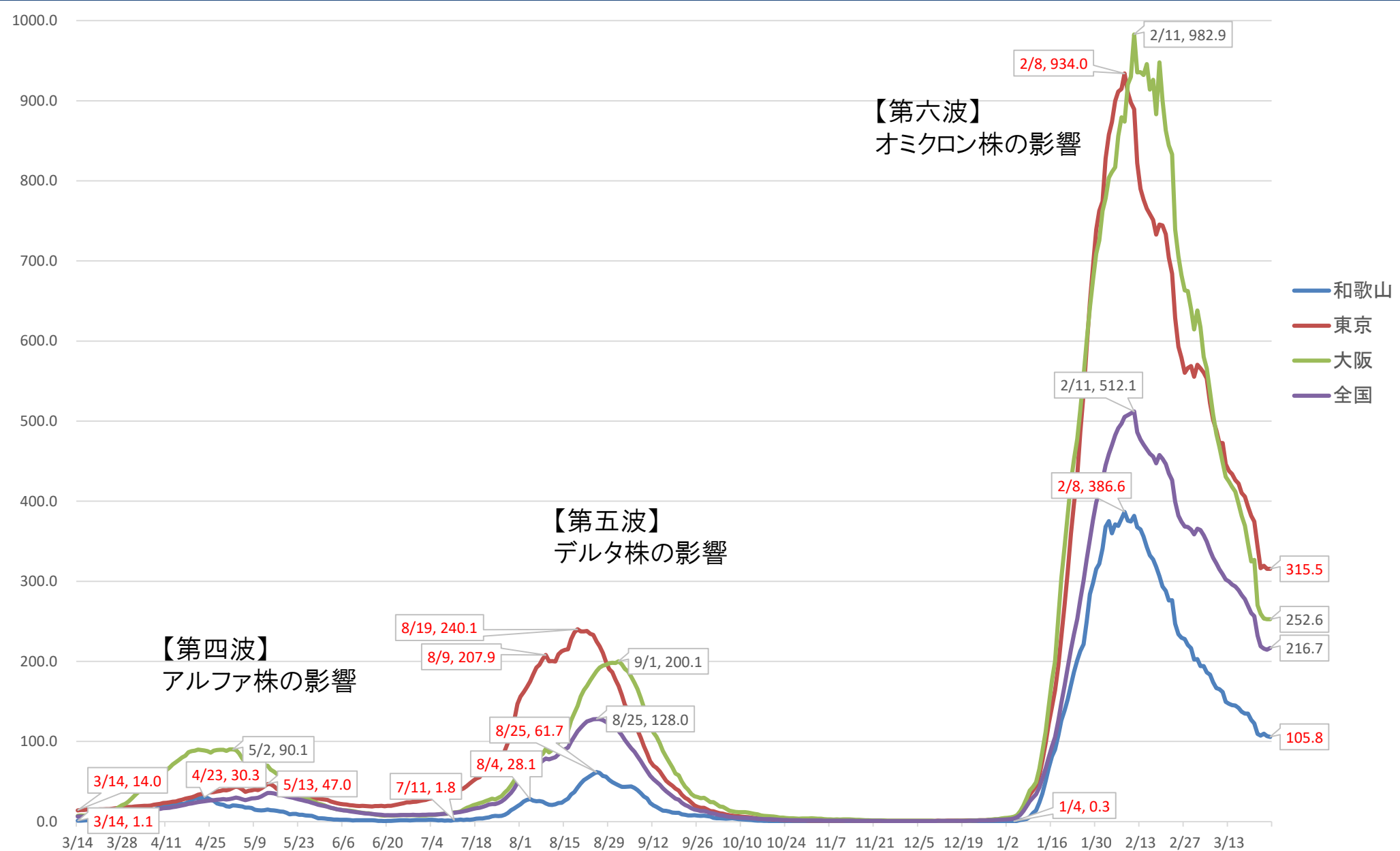
第五波

第六波



感染動向の推移（全国・東京・大阪・和歌山） 1週間・人口10万人当たり

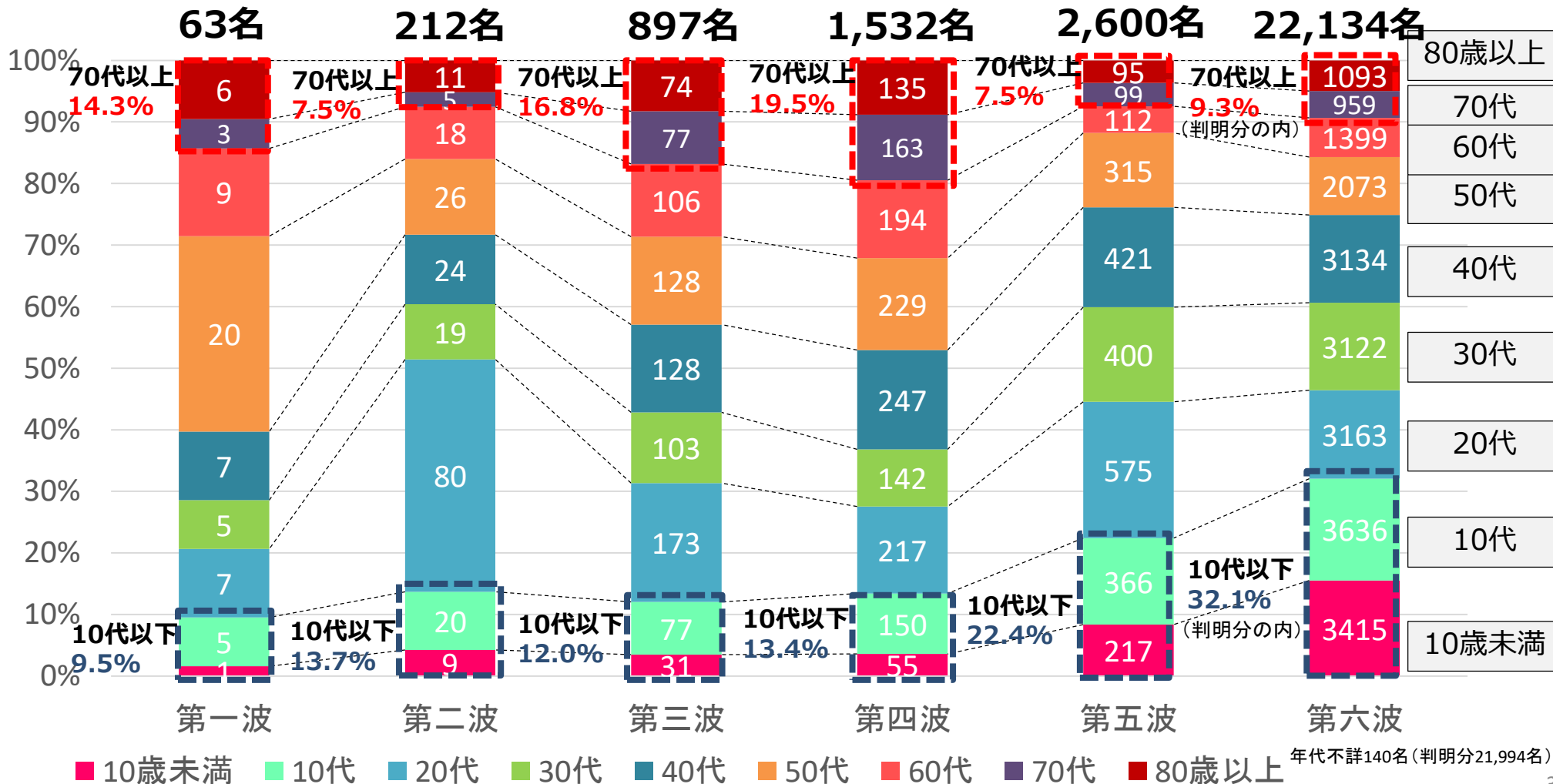
令和4年3月26日現在



県内の年齢別感染者数

(令和4年3月26日発表分まで)
27,438名

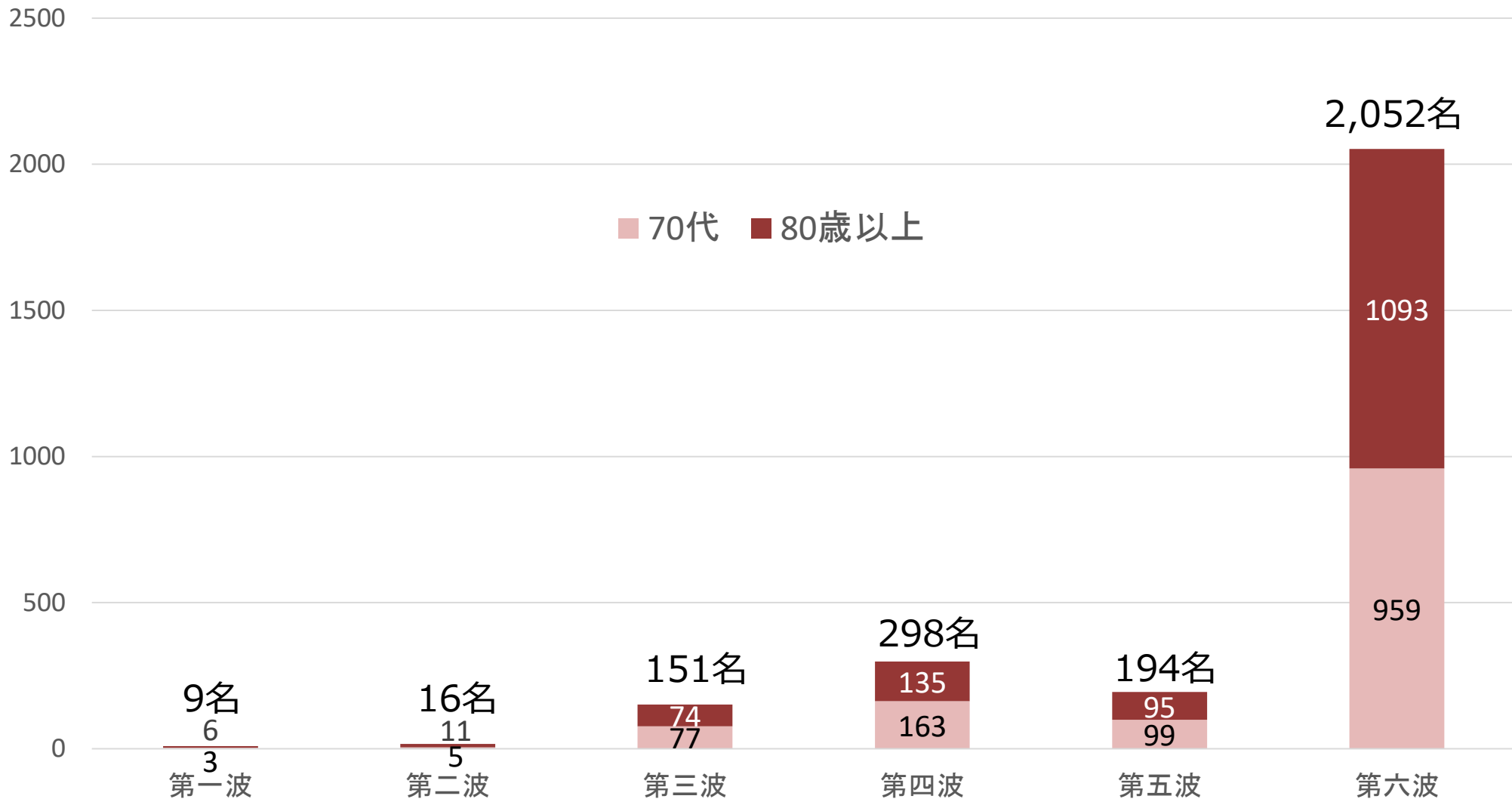
- 第一波では感染者の年代は50・60代が中心であったが、第二波では、20代以下の若者が中心となった。
- 第三波では、全年齢に感染が広がったが、特に高齢者と小児の患者数が増加している。
- 第四波においても、各年代に感染が広がるとともに、高齢者の割合が高くなっている。
- 第五波においては、20代が最も多く、高齢者は少ない。10代以下の若年者・小児が増加した。
- 第六波においては、10代以下の若者・小児が急増するとともに高齢者が増加した。



70歳以上の感染者数の推移

(令和4年3月26日発表分まで)

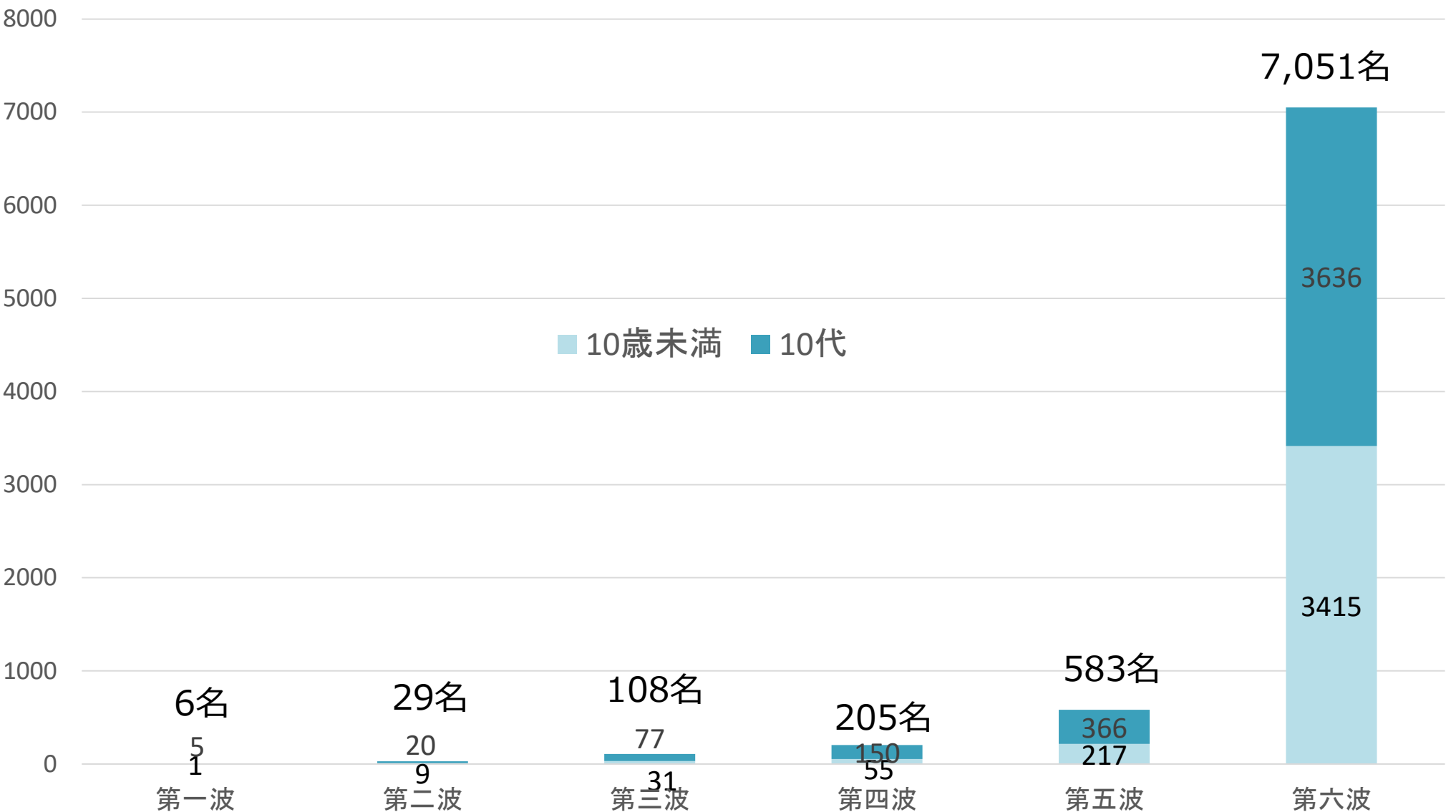
- 第三波・第四波では、高齢者が増加したが、ワクチン接種の効果により、第五波では高齢者の感染者は減少した。
- しかし、第六波では、感染者の総数が急増するとともに、70歳以上の高齢者が急増した。



10代以下の感染者数の推移

(令和4年3月26日発表分まで)

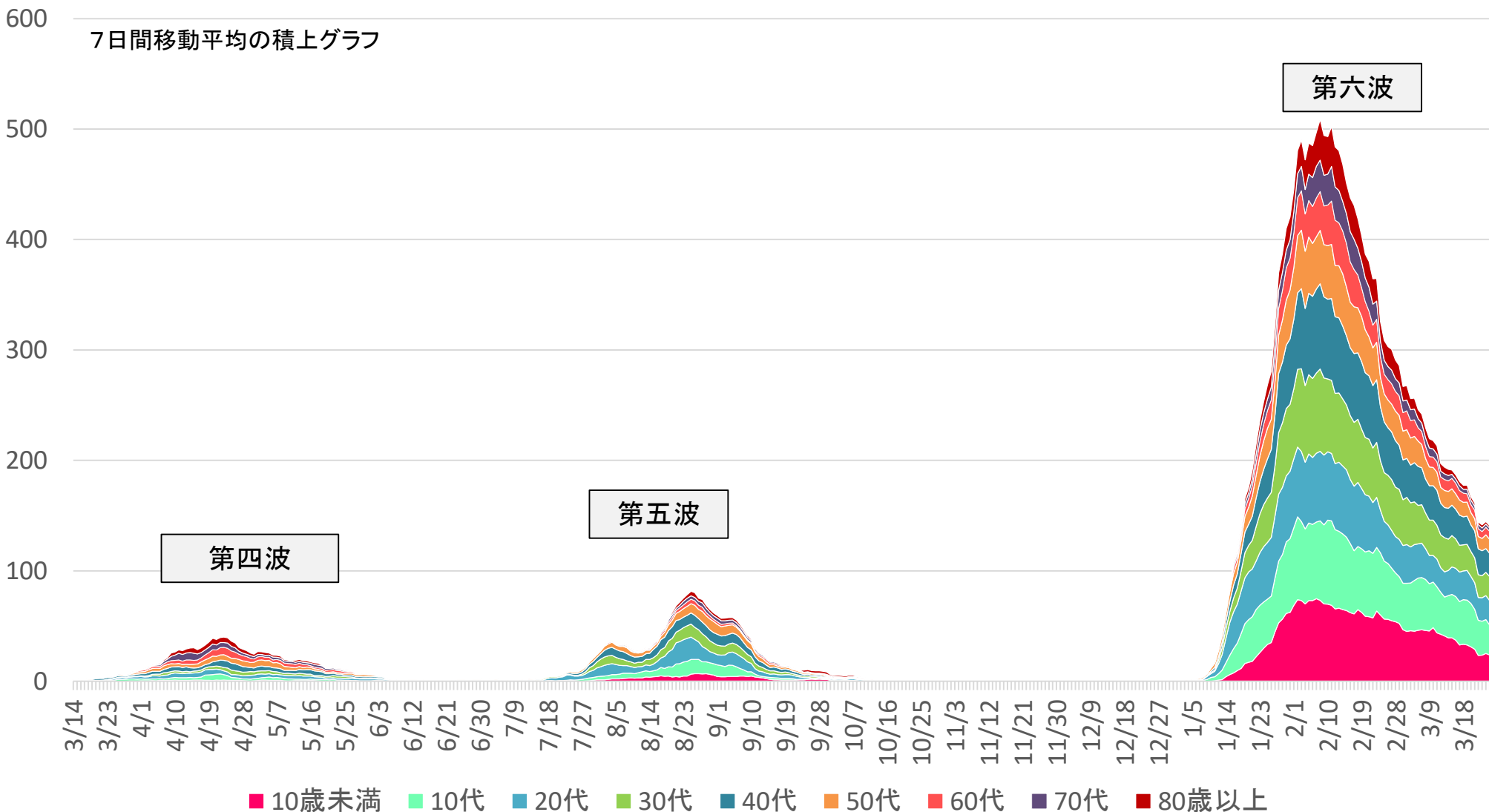
- 感染の波を経るにつれて10代の若者や10歳未満の小児の感染者は増加した。
- 第六波では、感染者の総数が急増するとともに、ワクチン未接種が多い10代以下の若者・小児が急増した。



県内の第五波以降の年齢別感染者数

(3月26日発表分まで)
第五波～ 24,734名
年代等不明分を除く

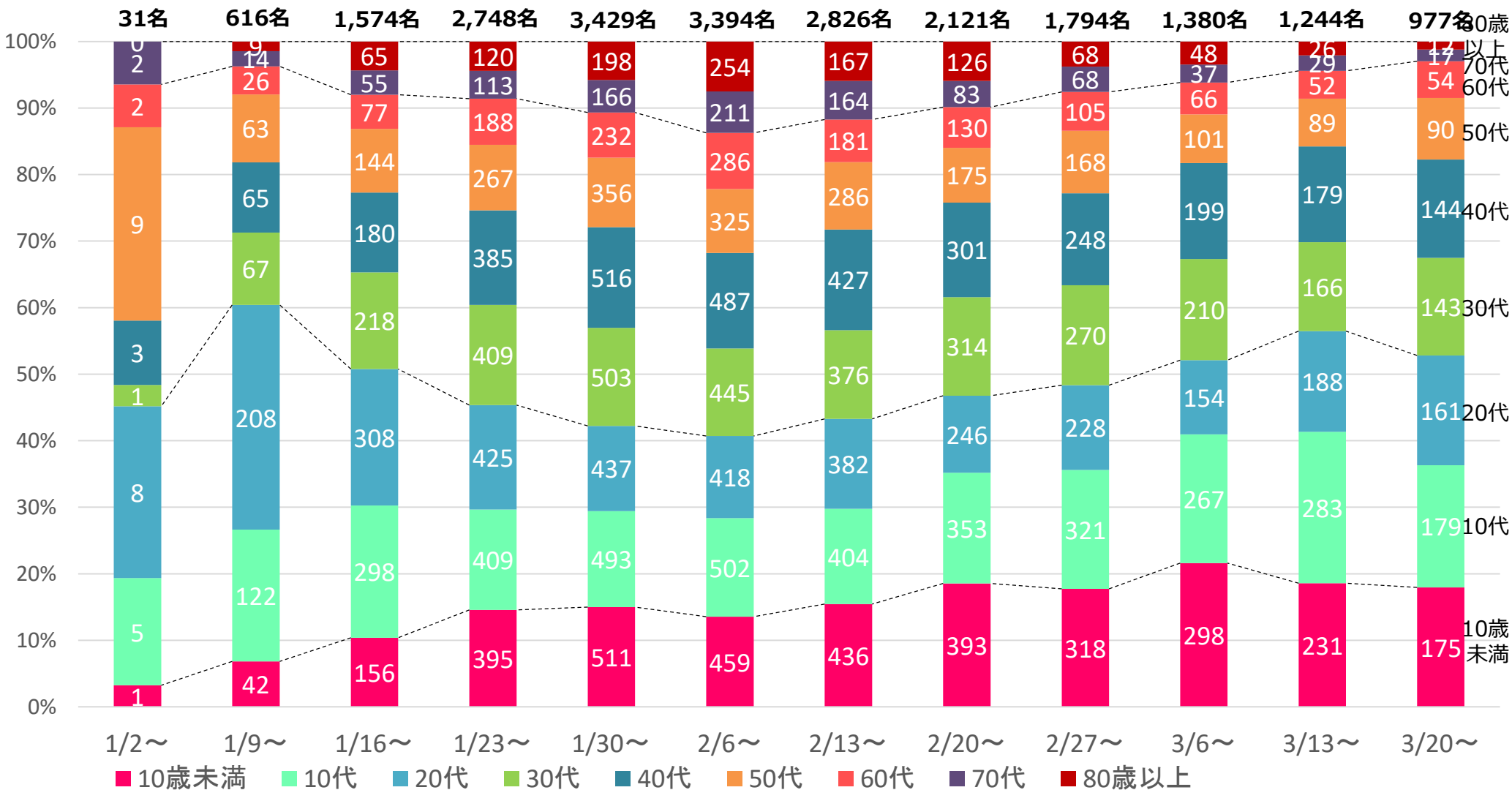
○ 第六波もこれまでと同様に、10代、20代の若者から感染の波が始まり、その後、すべての世代に感染が拡大した。第六波では、特に、高齢者と小児の感染者が増加した。



県内の第六波以降の週別年齢別感染者数

(3月26発表分まで)
第六波～ 22, 134名

- 第六波のこれまでのピークは、1月末から2月の第一週で、小児の感染が増えたことが最大の原因と思われる。
- 第六波で高齢者が最も多かったのは、2月の第二週で高齢者施設関係のクラスターや家族内感染が増えたことによると思われる。

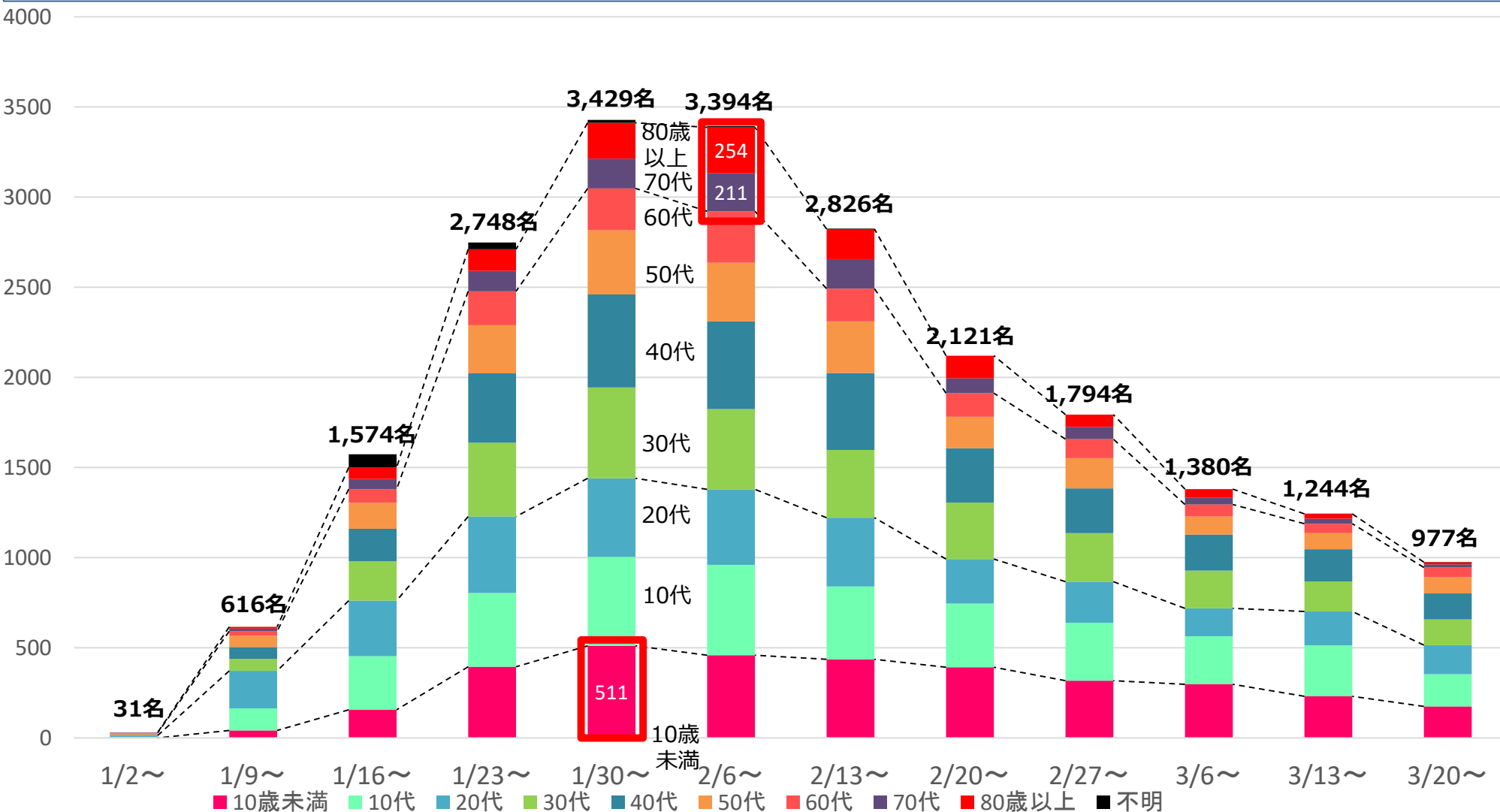


※グラフは年代不詳分を除いているため、各年代の合計値と各週の数(上部の数)が一致しない場合がある。

県内の第六波以降の週別年齢別感染者数

(3月26日発表分まで)
第六波～ 22,134名

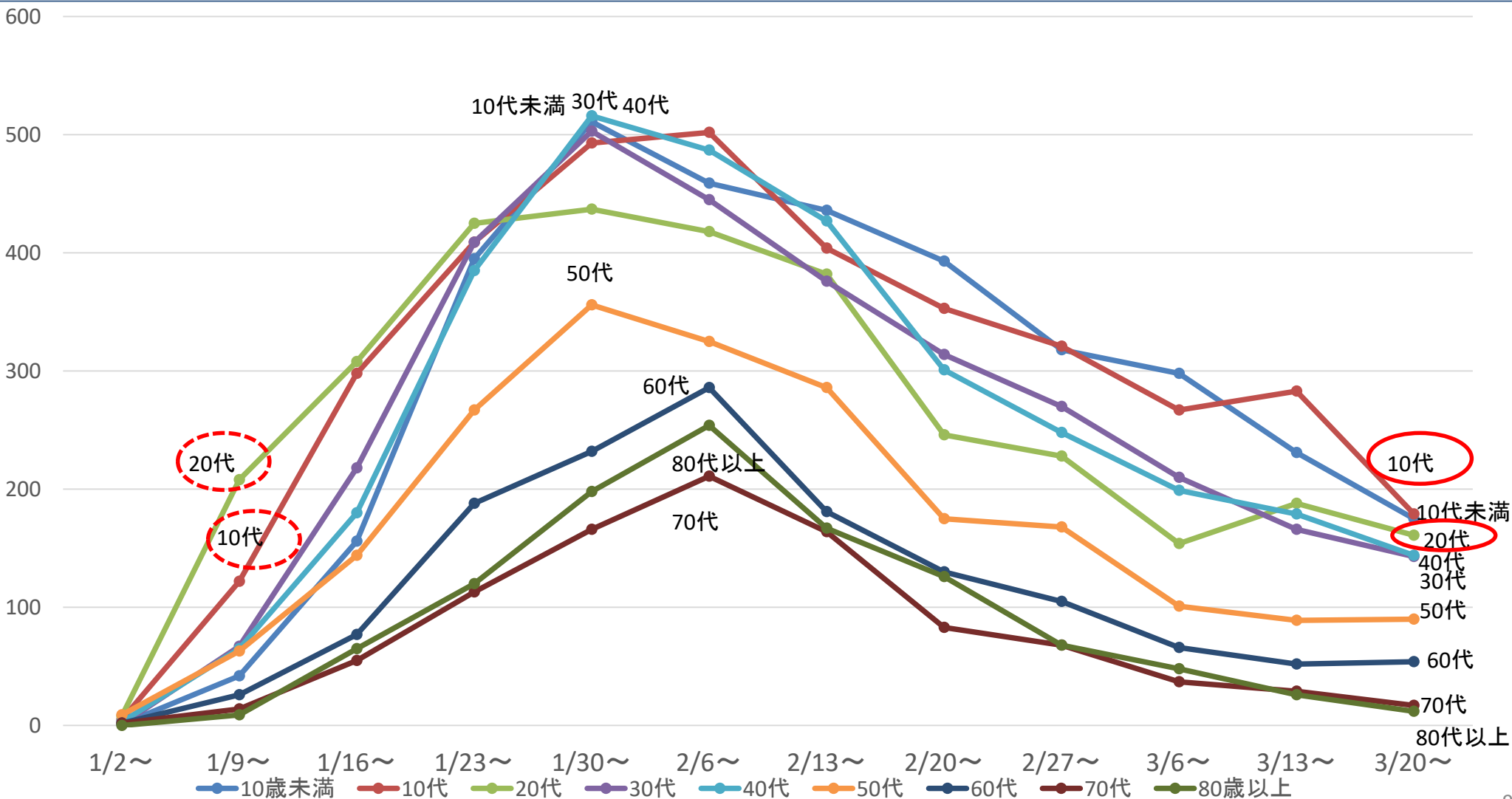
- 第六波のこれまでのピークは、1月末から2月の第一週で、小児の感染が増えたことが最大の原因と思われる。
- 第六波で高齢者が最も多かったのは、2月の第二週で高齢者施設関係のクラスターや家族内感染が増えたことによると思われる。
- 第六波の感染者数は、2月の第三週目から減少しているが、高齢者施設関係のクラスターが減少したことや小児の感染者数が減少したことによると思われる。



県内の第六波以降の週別年齢別感染者数

(3月26日発表分まで)
第六波～ 22,134名

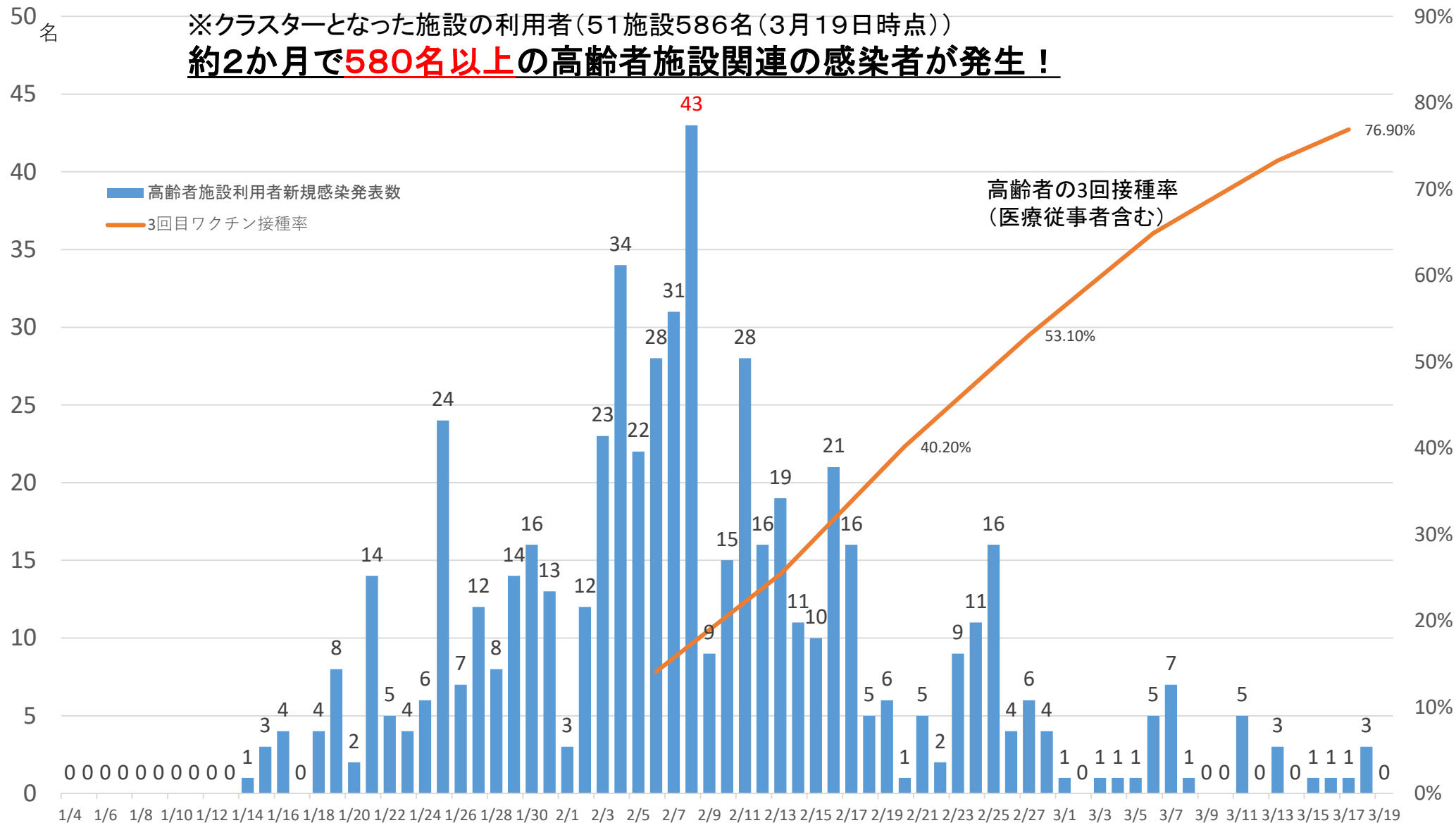
- 第六波の感染の拡大は、20代、10代から始まり、30代、40代の働き盛りの年代、その家族の子供に、そして高齢者に感染が拡大していった。
- どの年代も2月中旬から3月初旬には減少していったが、3月中旬に、再び、10代、20代の行動が活発な年代の感染者が増加したことから、今後、再度感染拡大に転じる可能性があり、注視していく必要がある。



高齢者施設利用者の新規感染者数の推移（第六波）

※クラスターとなった施設の利用者（51施設586名（3月19日時点））

約2か月で580名以上の高齢者施設関連の感染者が発生！

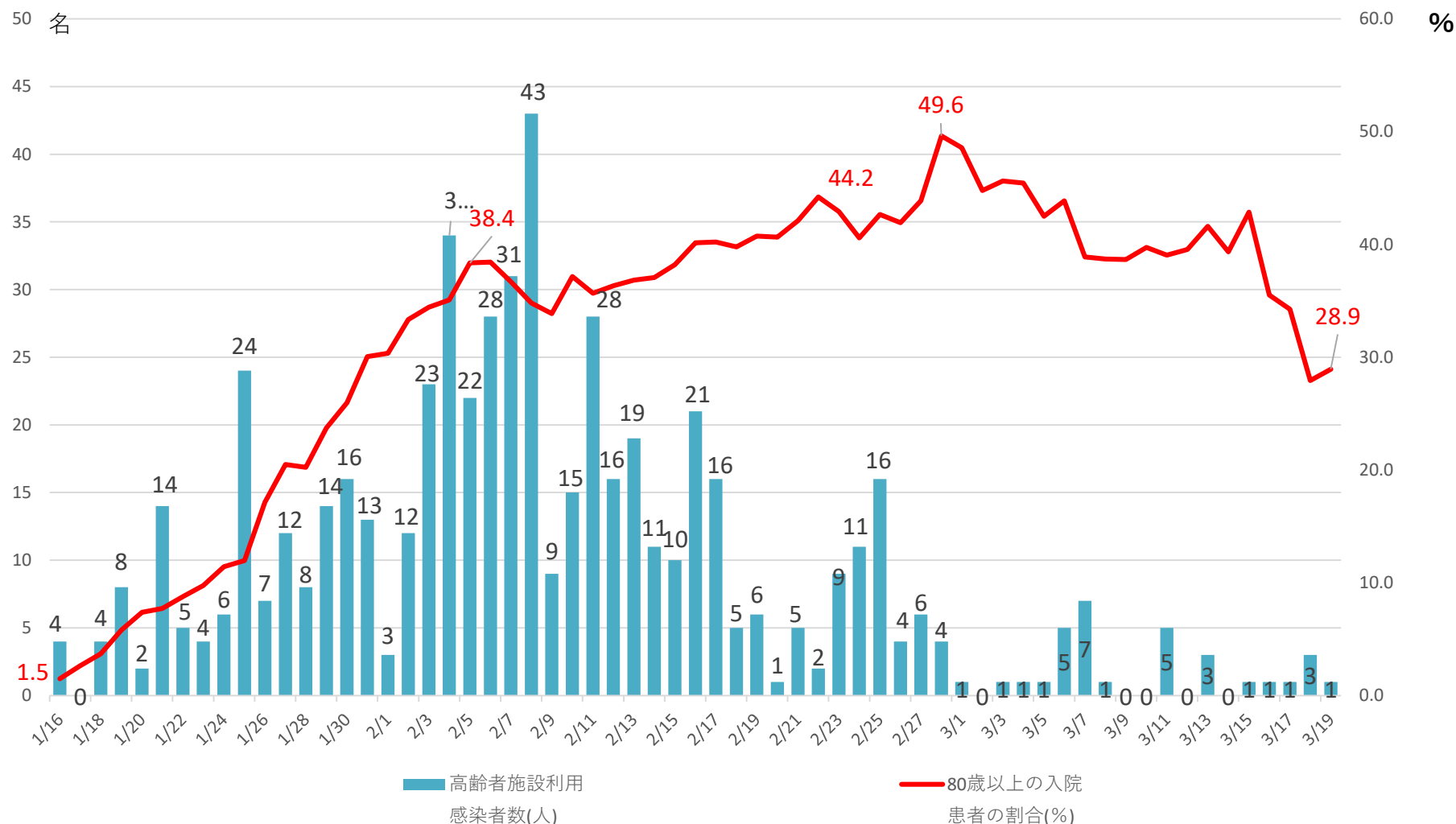


発表
総数

1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19
2	4	13	4	8	21	45	34	93	117	149	157	157	122	196	269	232	275	323	308	257	303	347	490	595	448	471	318	480	597	556	455	552	452	400	559	496	547	519	421	426	317	436	402	498	435	312	311	267	326	404	226	314	273	294	199	290	273	231	232	275	221	172	203	204	219	199	162	198	158	199	175	176	162	

入院患者に占める80歳以上の割合と高齢者施設関係感染者数（令和4年1月16日～3月19日）

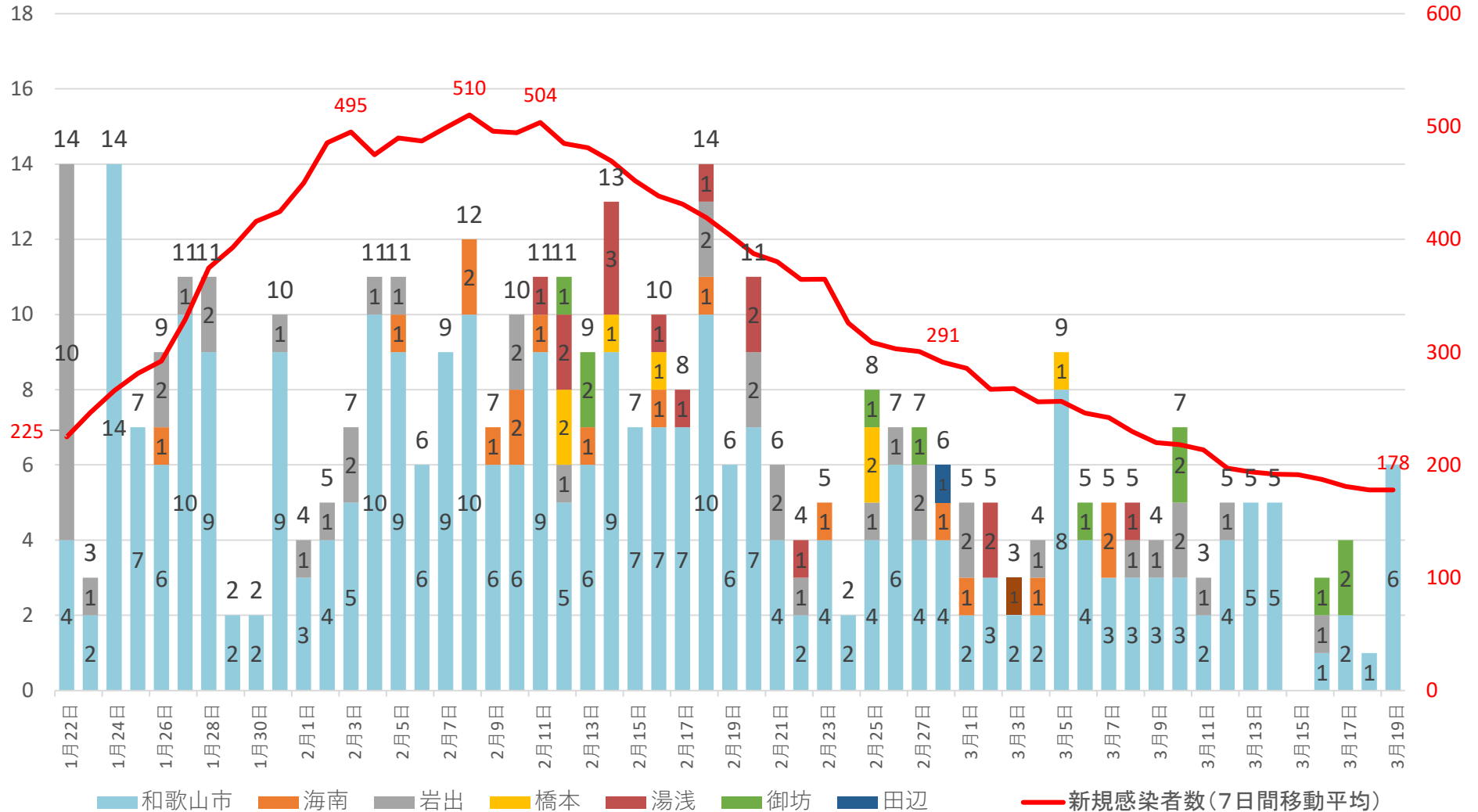
○ 第六波において、高齢者施設関係のクラスターが多発し、感染者が急増した。それに伴い、入院患者のうち80歳以上の高齢者の占める割合も増加した。また、高齢者は重症化しやすいことから入院期間も延びており、高い割合を維持していたが、高齢者の感染者が減少したことから入院の割合も減少している。



救急等緊急対応件数

(令和4年1月22日～3月19日)

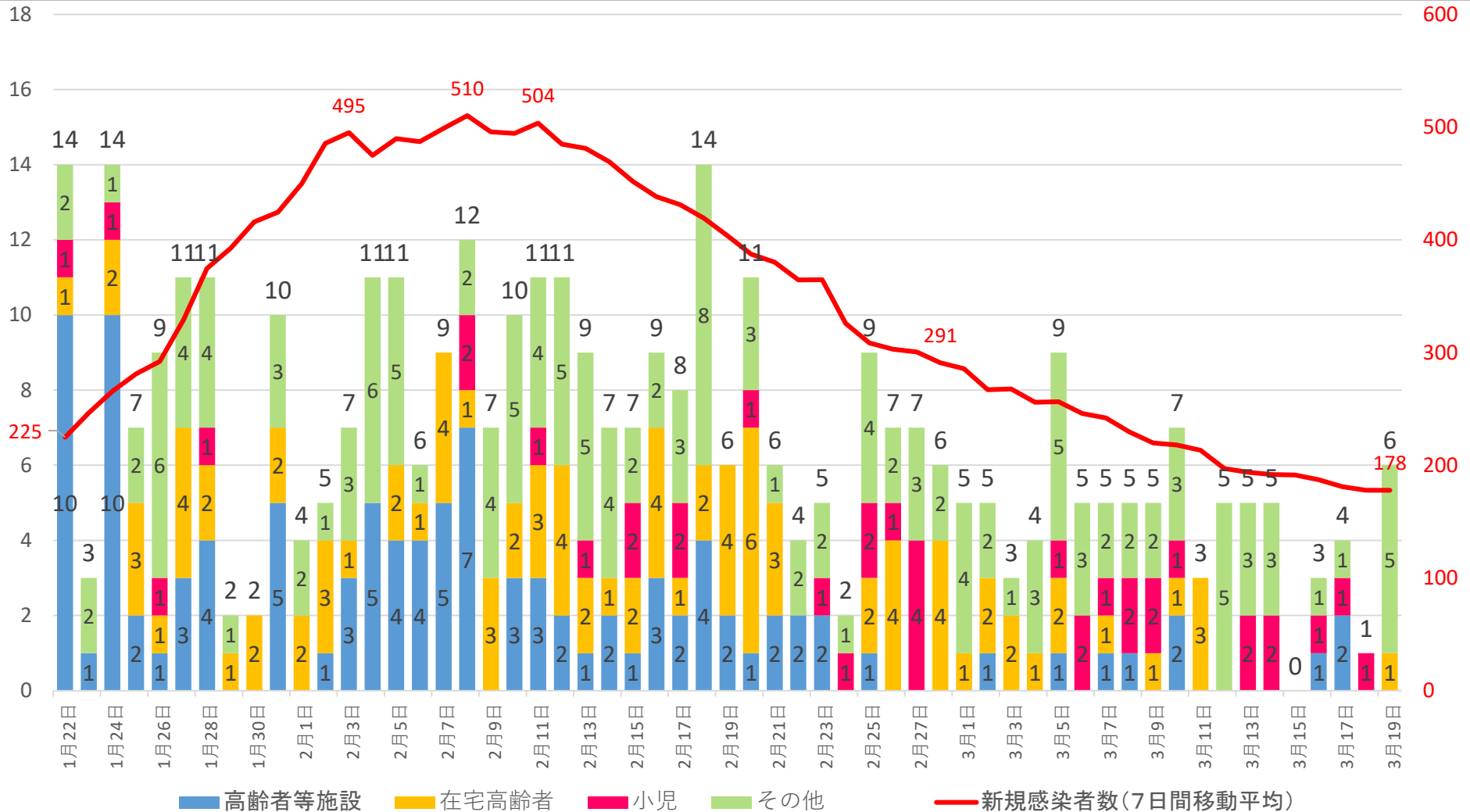
- 第六波において、時間内外に緊急で県（技監）が入院と受診調整を要した件数の推移との新規感染者数の7日間平均の推移を示す。
- ほとんどが和歌山市の感染者であるが、感染の拡大に伴い近隣の保健所からの要請が増えた。最近では、依然として和歌山市からの救急対応要請が多い。 ※橋本、田辺の一部は計上していない。



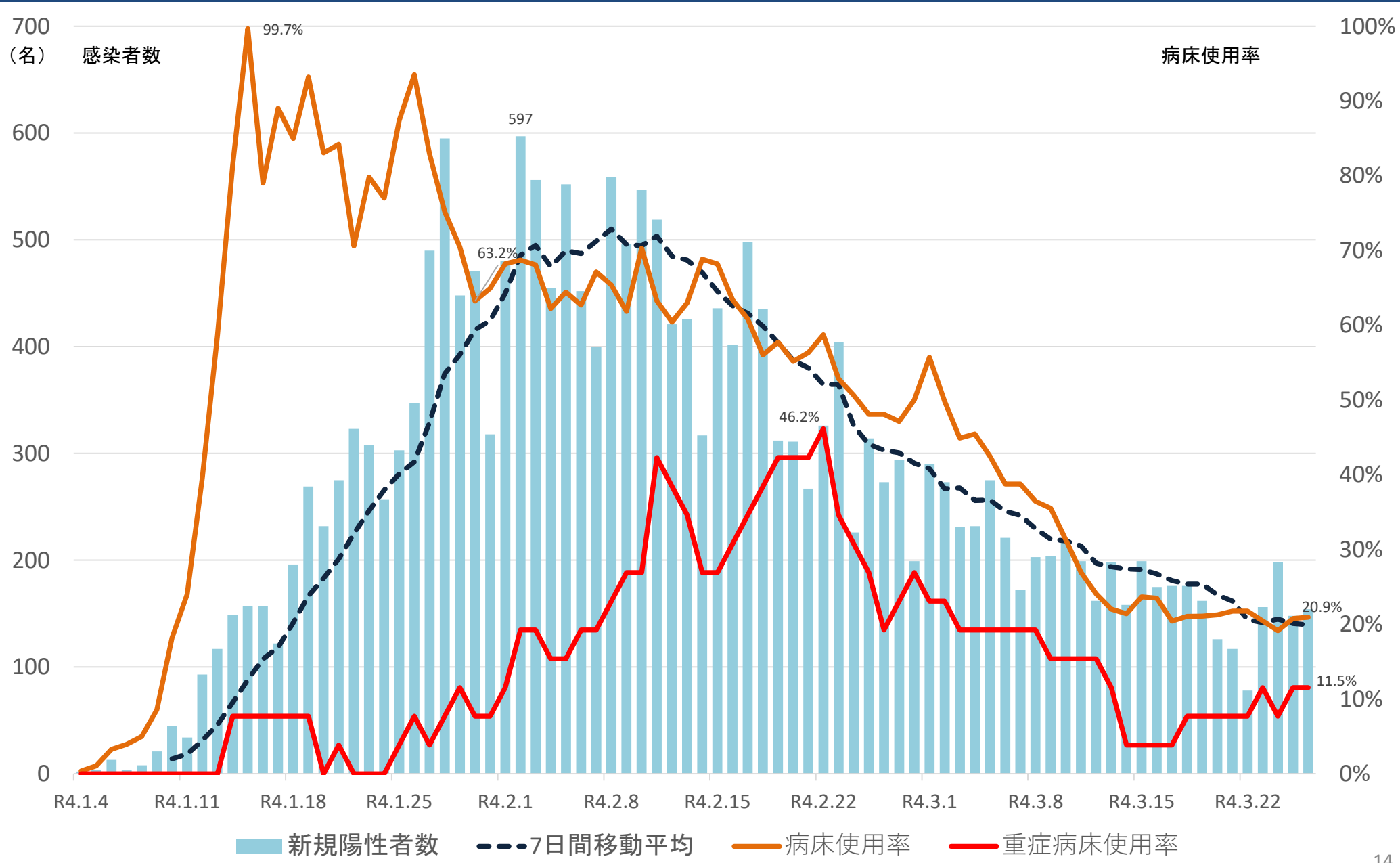
救急等緊急対応件数

(令和4年1月22日～3月19日)

- 第六波において、時間内外に緊急で県（技監）が入院と受診調整を要した件数の内訳の推移との新規感染者数の7日間平均の推移を示す。
- 1月下旬から2月下旬にかけての約1か月間は施設入所の感染者の救急が多く、2月中旬から在宅の高齢者が増えた。2月中旬から小児の事例が増えている。 ※橋本、田辺は一部計上していない。



和歌山県の新規陽性者数と病床使用率の推移（第六波）

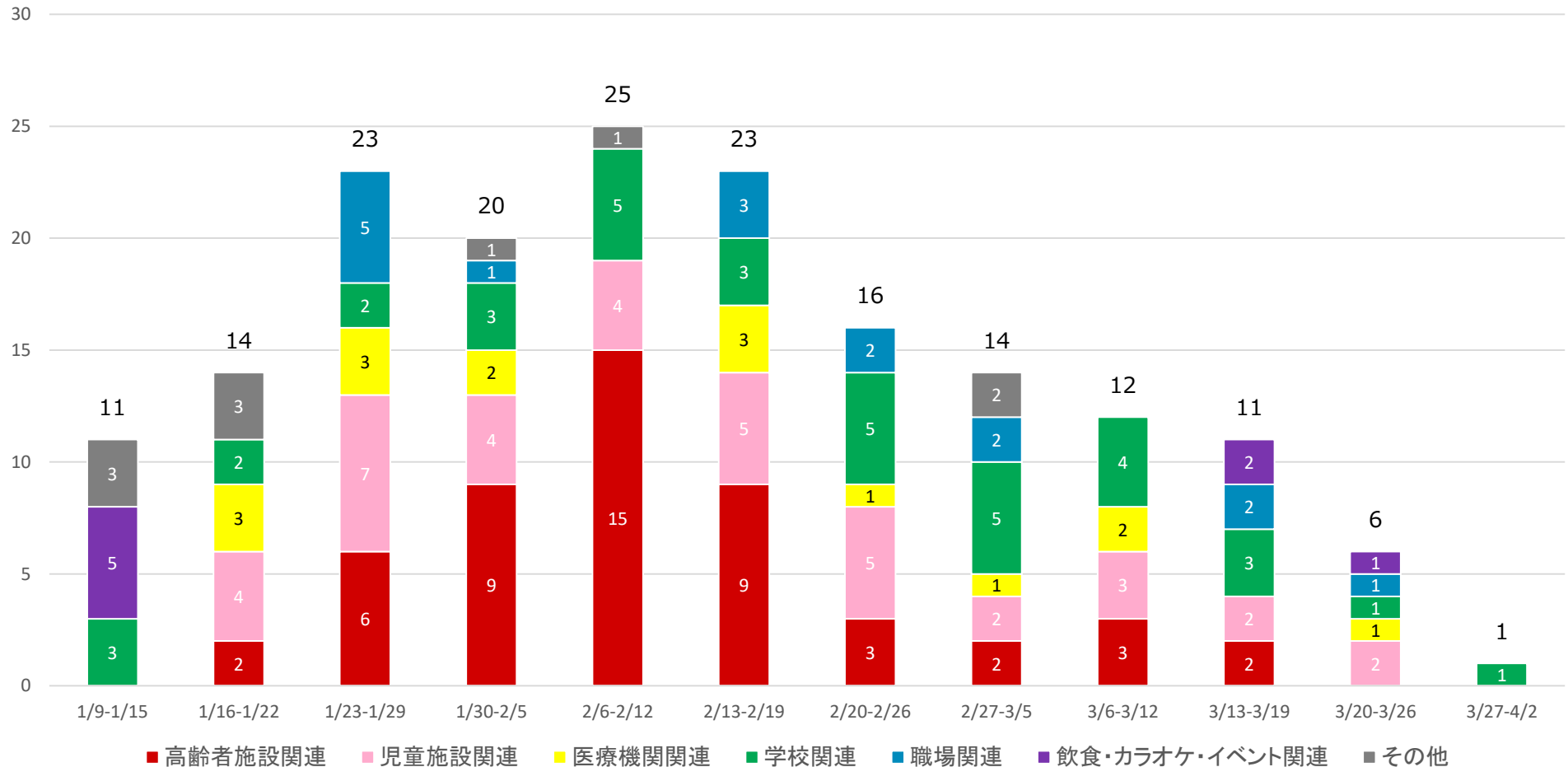


クラスター

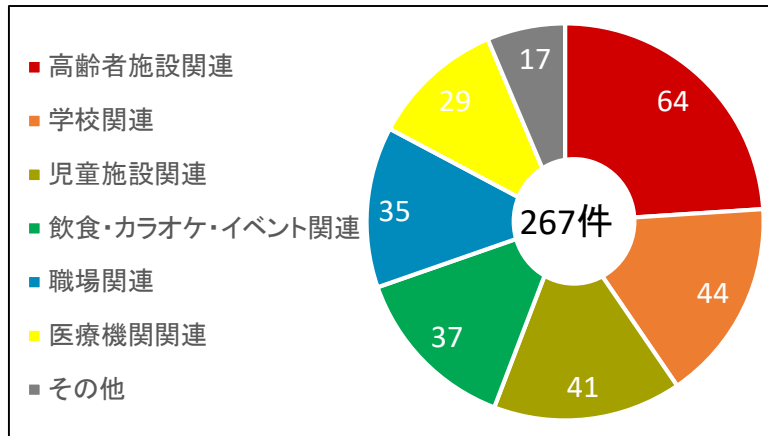
クラスター発生数 第六波

令和4年3月27日時点

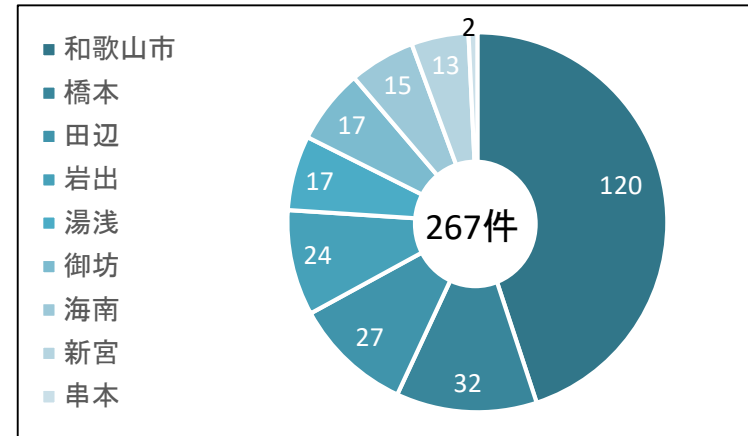
- 第六波の初期では、新成人式後や同窓会等による飲食によるクラスターが多かったが、その後、保育園などの児童福祉施設や医療機関のクラスターが見られるようになった。
- 1月下旬には、学校関係も増加し、1月末から2月にかけて高齢者施設関係のクラスターが多発した。
- 2月からは高齢者施設関係は減少したが、学校関係が多い。
- 3月からは学校、児童福祉施設が多いが、高齢者施設や医療機関もなお発生している。



1. 種類別発生数

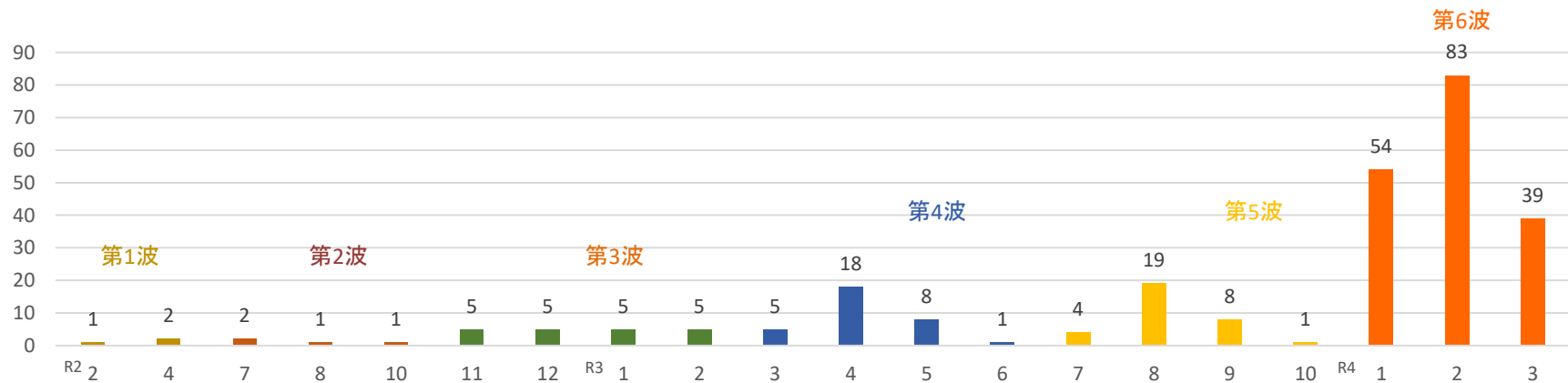


2. 保健所別発生数

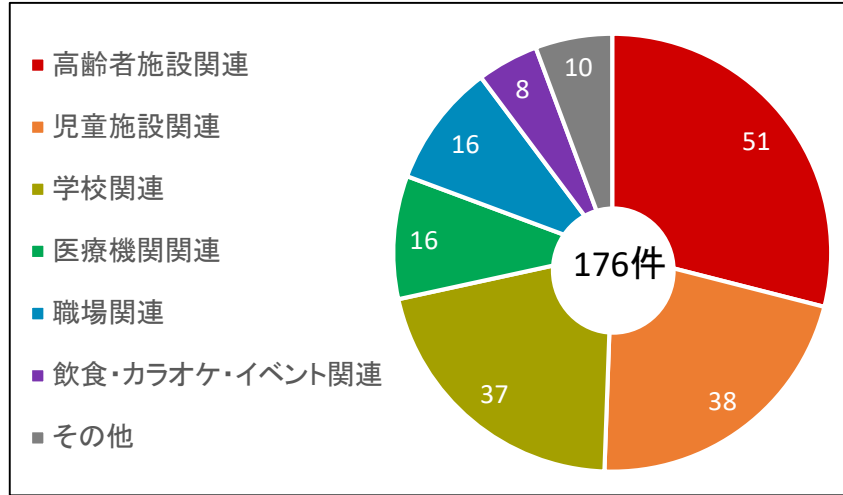


3. 月別発生数

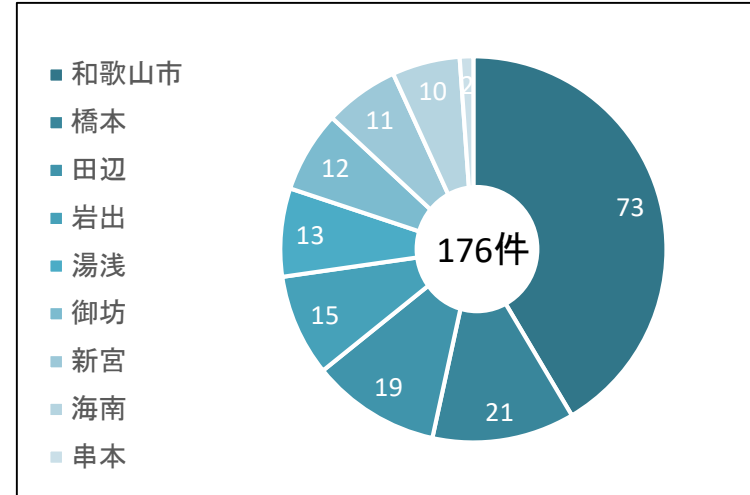
※横列: 月、縦列: 発生件数



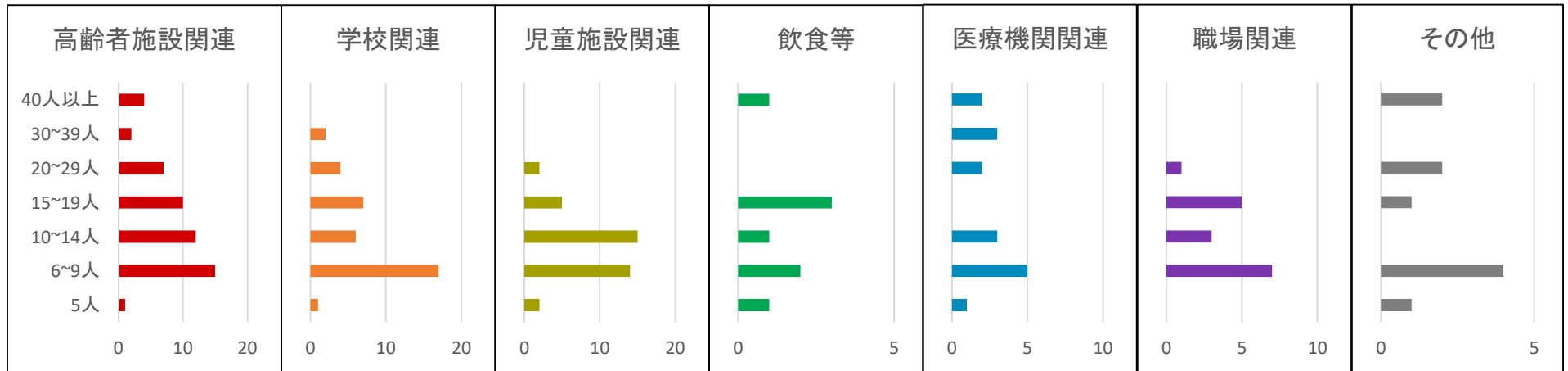
1. 種類別発生数



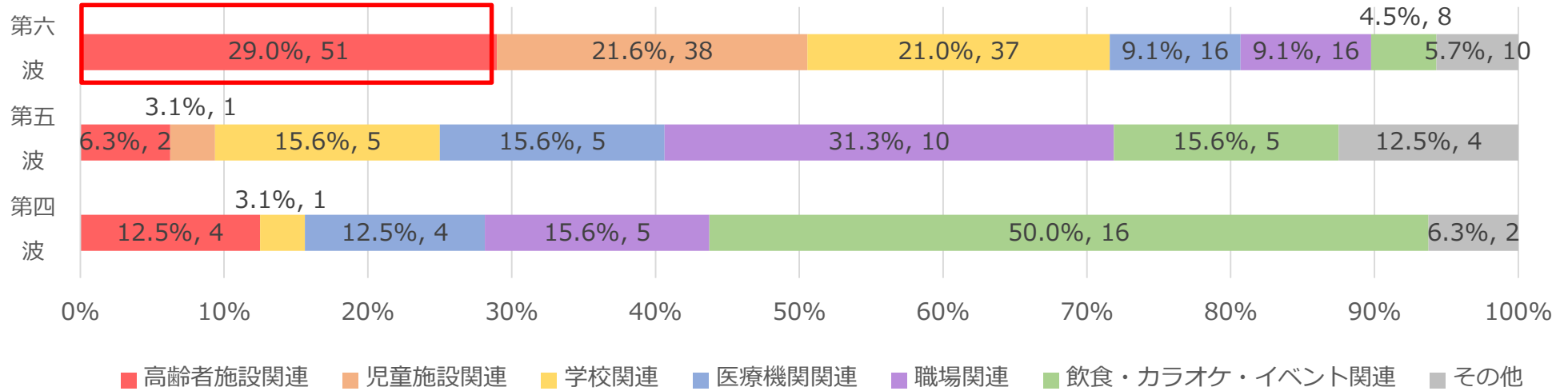
2. 保健所別発生数



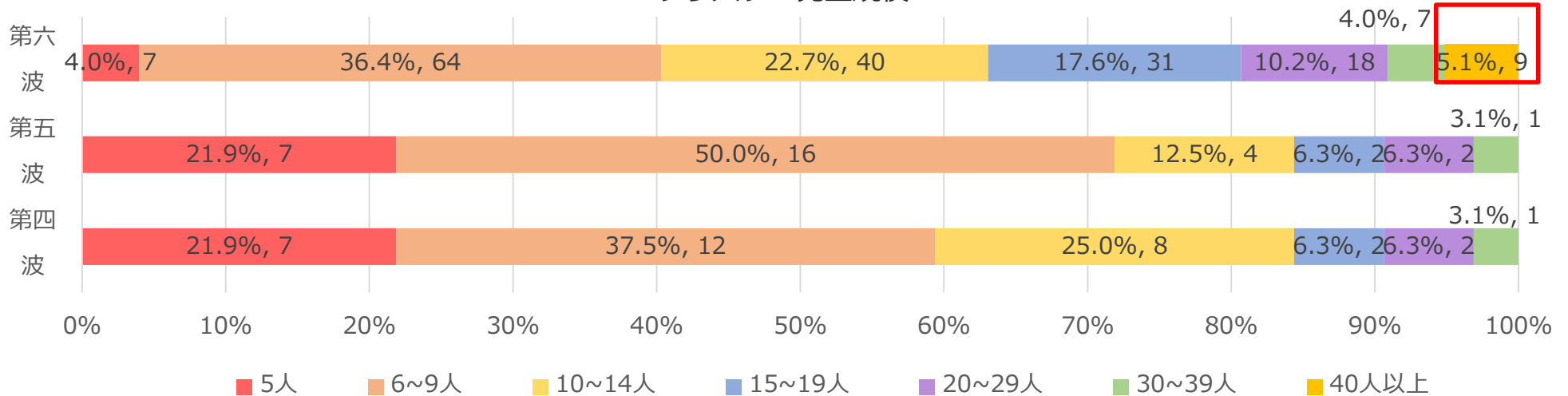
3. 種類別規模



クラスター施設



クラスター発生規模



R 4. 1月発生の感染者とゲノム解析

高校(和歌山市)
カフェ(湯浅H,C)
保育所(御坊H,C)
新年会(田辺H,C)
ジュニアバレ(田辺H,C)

高校女子バレ部(和歌山市)
バレ大会(岩出H,C)
保育園(橋本H,C)
居酒屋(橋本H,C)

- 北海道
- 東北
- 関東
- 北陸・信州
- 中部
- 関西
- 中国・四国
- 九州

カラオケ(岩出H,C)
成人式同窓会(岩出H,C、橋本H,C)

高校男子バレ部(和歌山市)
こども園(和歌山市)
成人式同窓会(岩出H,C)
相撲練習(湯浅H,C)
バドミントン(大阪)

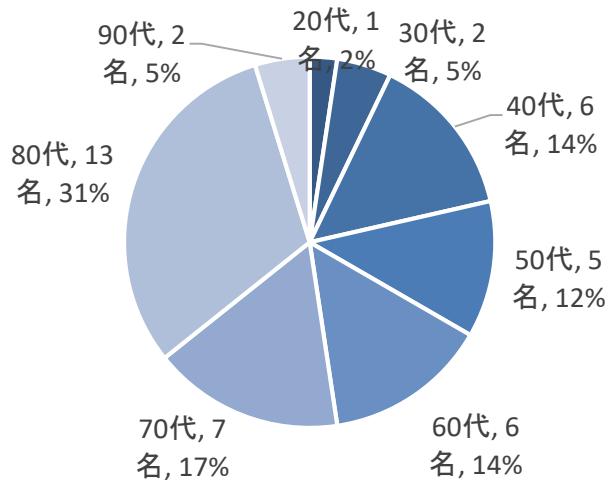
特殊対応・再感染の事例

第六波における透析中の患者について

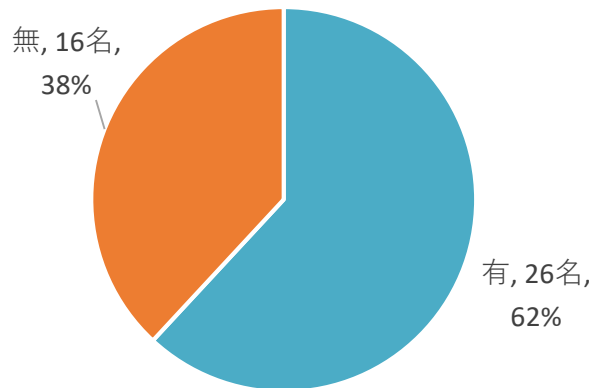
N=42名

- 第六波では、透析患者の感染も多かった。年代も幅広かったが、60代以上の高齢者が約7割を占めた。
- ワクチン3回接種者もいたが、2回接種者が多かった。
- 約4割が肺炎を併発し、重症化する者も多くなった。

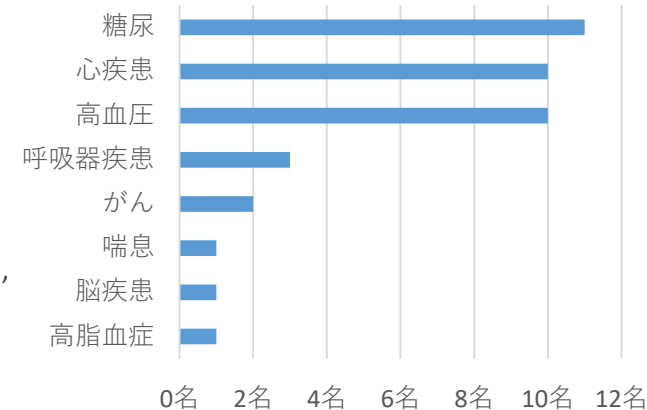
1. 年代



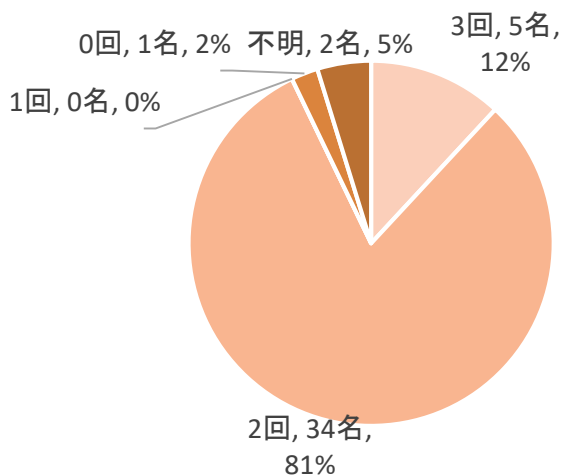
2. 基礎疾患（腎疾患を除く）



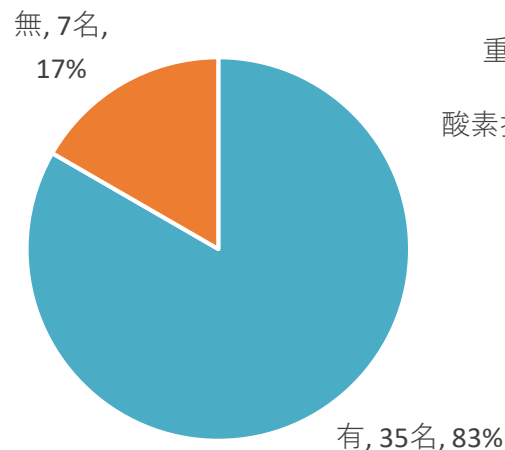
(重複を含む。)



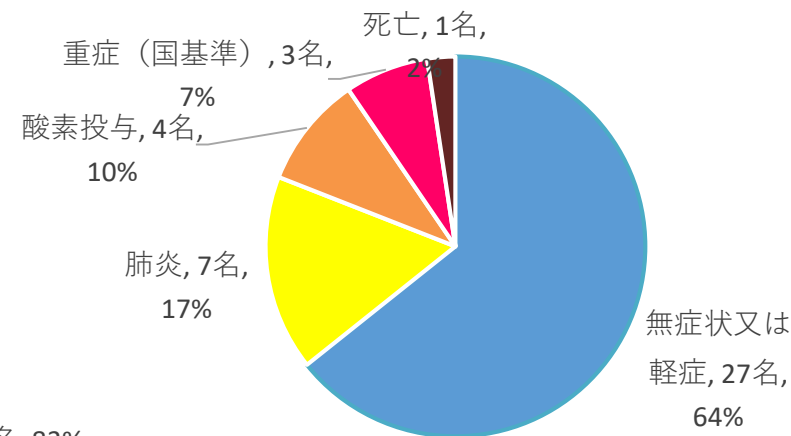
3. ワクチン接種回数



4. 陽性判明時症状



5. 重症度



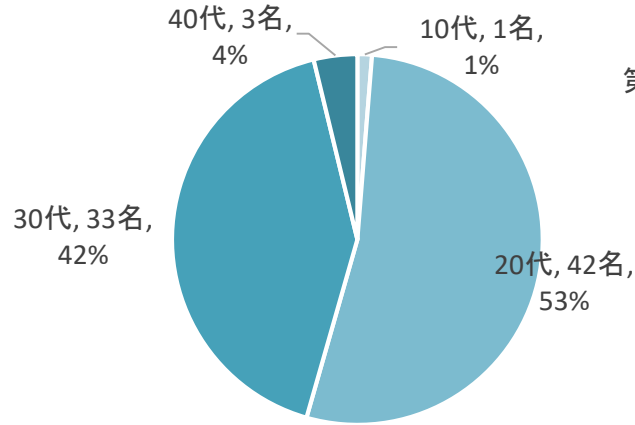
第六波における妊娠中の患者について

令和4年3月19日時点

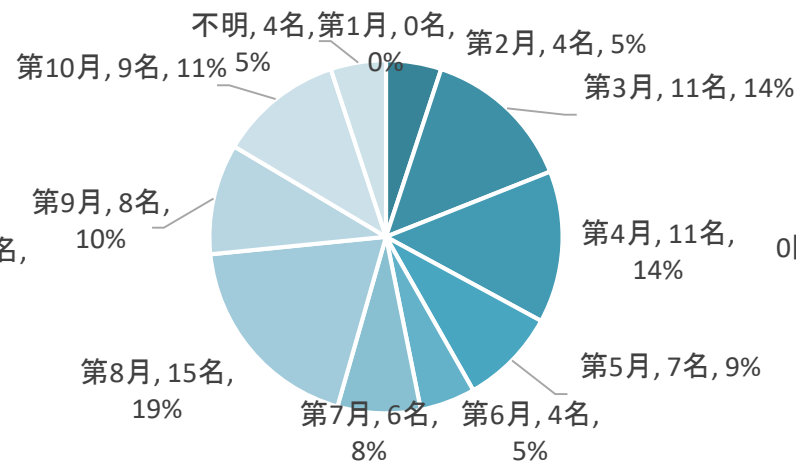
N=79名

- 第六波では、妊婦の感染も多かった。3月19日発表までで79名確認した。そのうち、ワクチン2回接種者は半数。
- 妊婦で肺炎合併は、2名であったが、酸素投与に至る事例はなかった。なお、分娩に至った例も複数あったが、子供が陽性例は無かった。

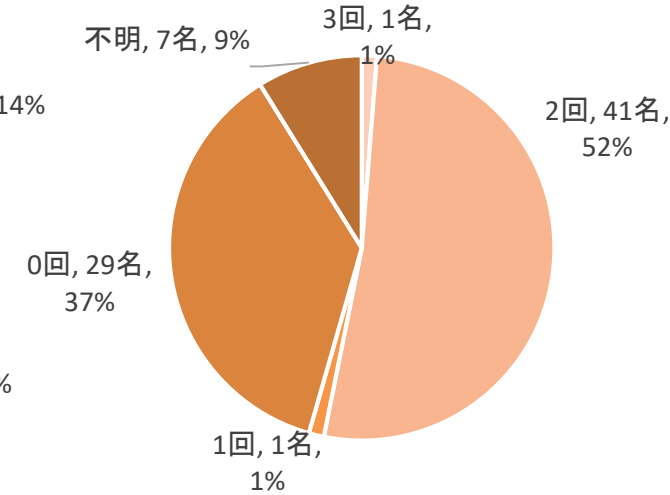
1. 年代



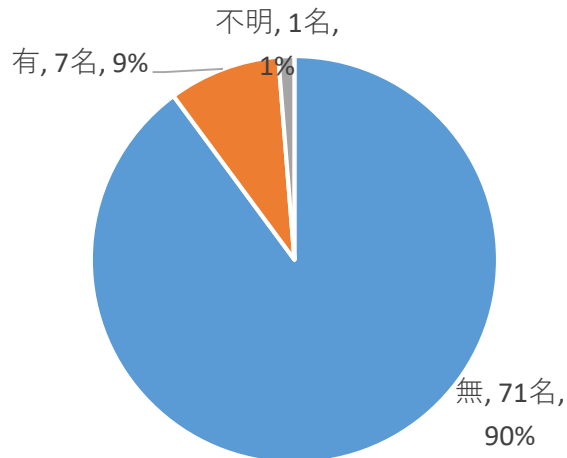
2. 陽性判明時妊娠期間



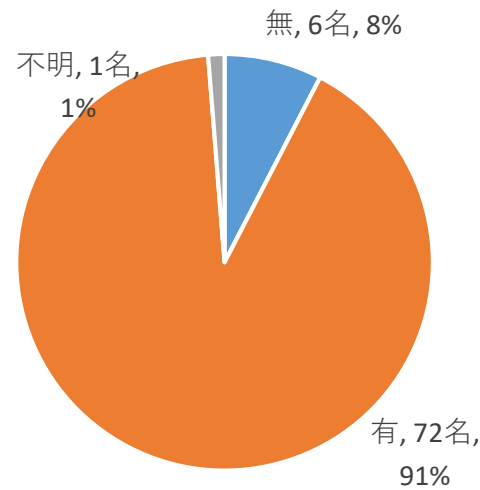
3. ワクチン接種回数



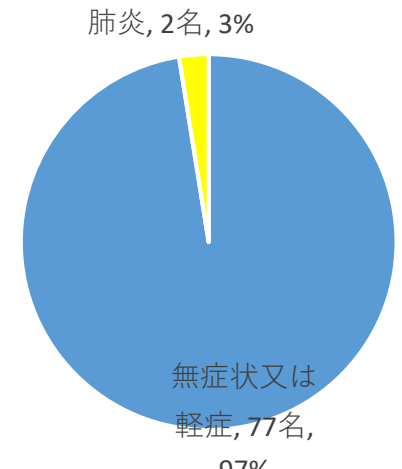
4. 基礎疾患の有無



5. 陽性判明時症状



6. 重症度



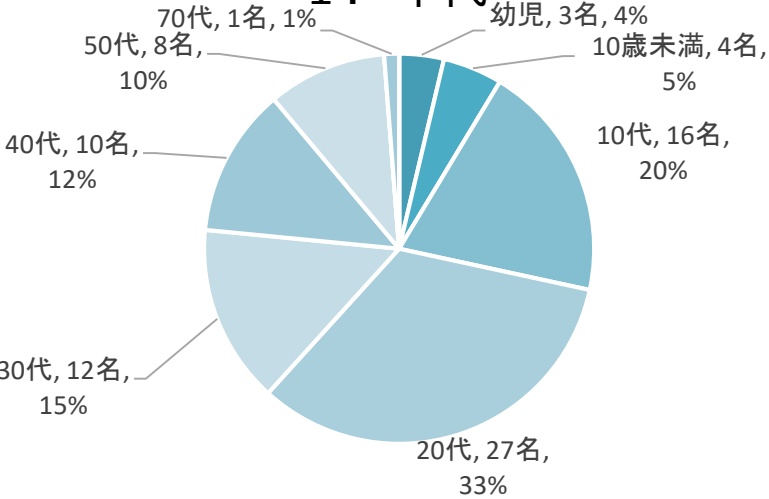
第六波における再感染とみられる陽性者について

令和4年3月19日時点

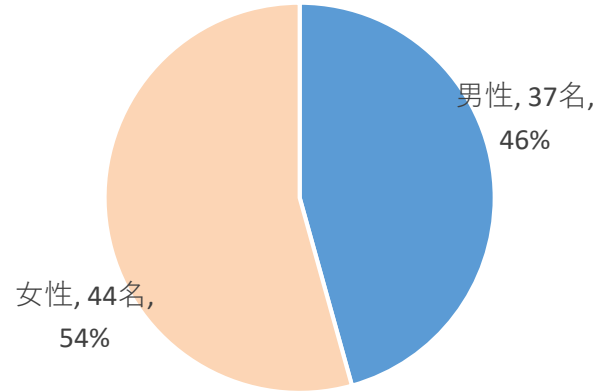
N=81名

- 再感染例はほとんど50代以下の者であった。特に、若い人では感染リスクのある行動を行うことにより再感染し、家族に感染させていることが推定される。
- オミクロン株は再感染例が多かったが、ワクチン接種未接種者に多い。また、初回感染は第二波から第五波までであった。若い人に多いことから基礎疾患をもっていないことが多い。

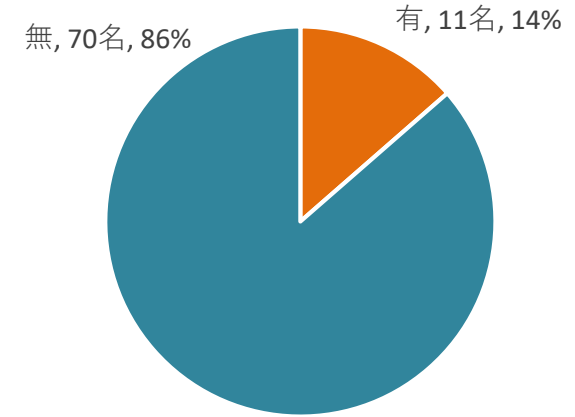
1. 年代



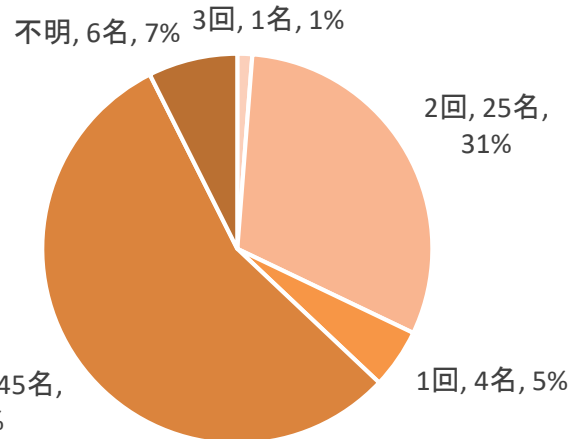
2. 性別



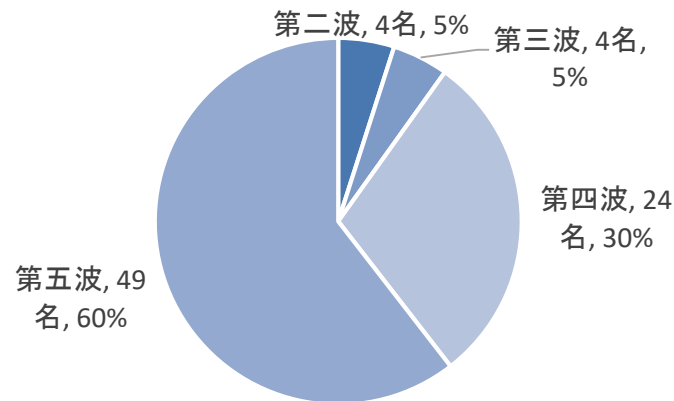
3. 基礎疾患の有無



4. ワクチン接種回数

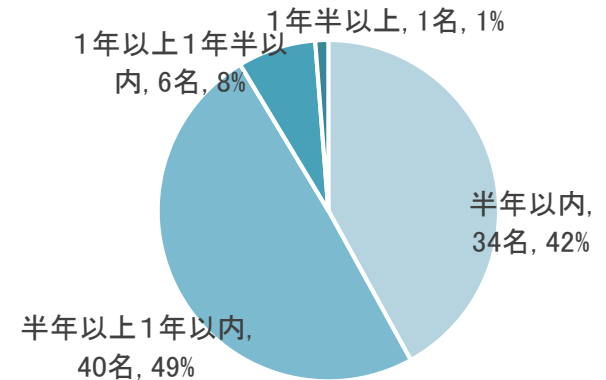


5. 初回感染の時期（波）



6. 再感染までの期間

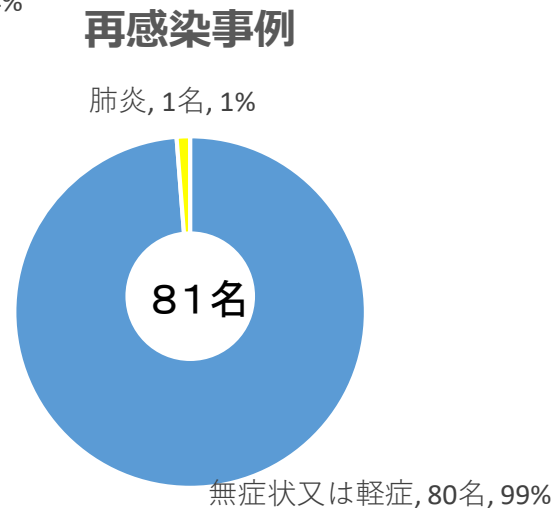
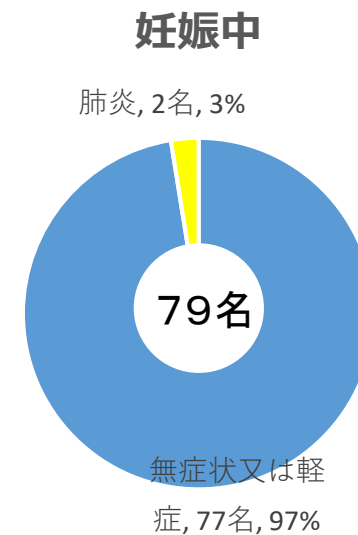
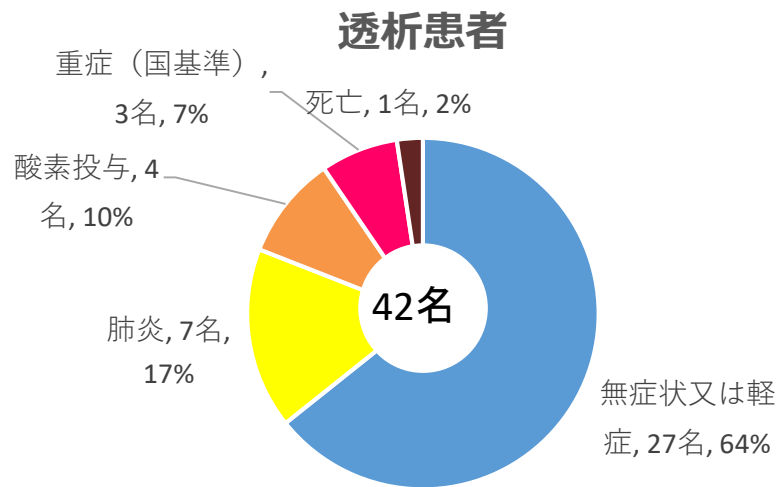
(陽性確認検体の採取日の間隔による)



第六波における特殊対応・再感染例の重症度

令和4年3月19日時点

- 第六波では、透析患者、妊婦、再感染例も多かった。
- 透析患者はほとんどが入院されたが、外来での透析継続も数例あった。肺炎の併発例は約4割と多かった。
- 妊婦では、入院が多かったが、妊娠初期では自宅療養も多かった。肺炎は2名に確認された。
- 再感染例では、無症状または軽症が多く、ほとんどが入院をされなかった。1例に肺炎が確認された。



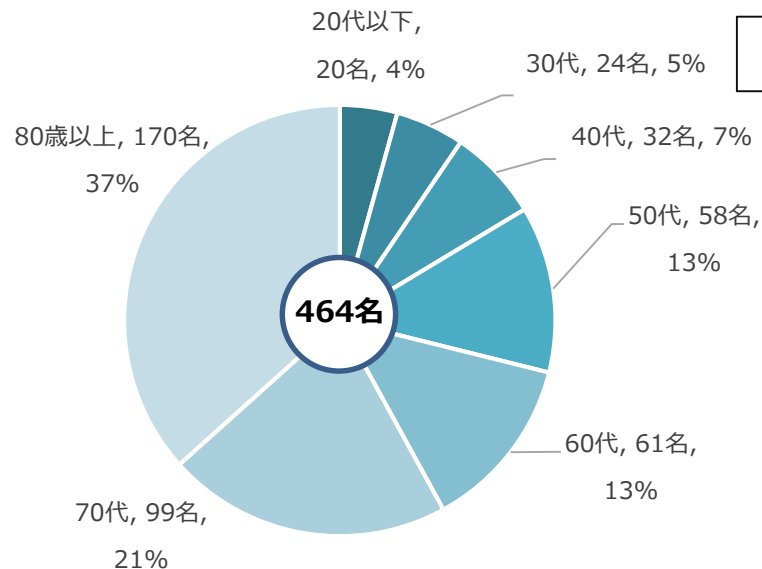
肺炎

第六波 肺炎患者の状況

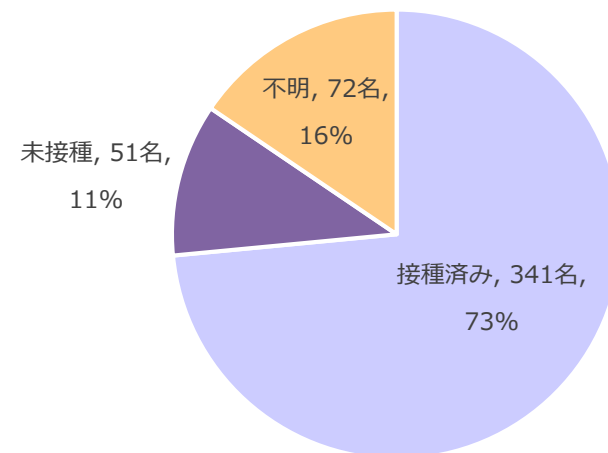
令和4年2月20時点
N=464

- 第六波の令和4年2月20日時点で確認された肺炎併発者は464名であった。新規感染者の約3%にあたる。
- 40代以上に多く、特に70代以上の高齢者に多かった。まれに、小児の事例もあった。
- ワクチン接種済者にも確認されたことに留意する。

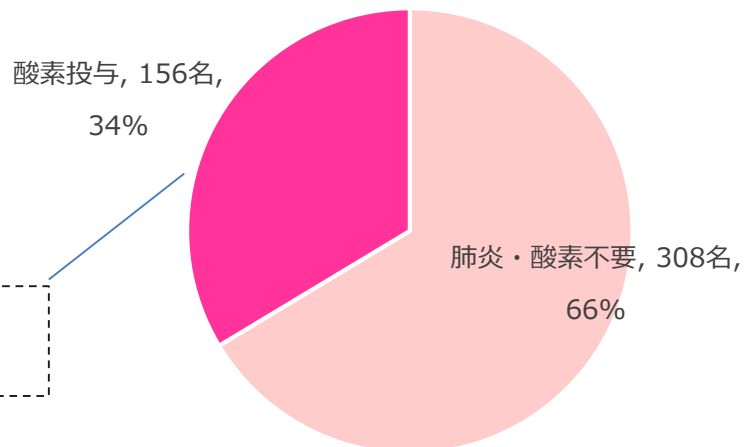
年代別



ワクチン接種



重症度



治療薬

抗体薬	150名
抗ウイルス薬	263名
ステロイド薬	146名

※重複投与を含む

肺炎の併発は高齢者に多く、
70代以上の割合は約6割を
占める

男性	253名
女性	211名

肺炎併発者のうち
約3割に酸素投与が必要

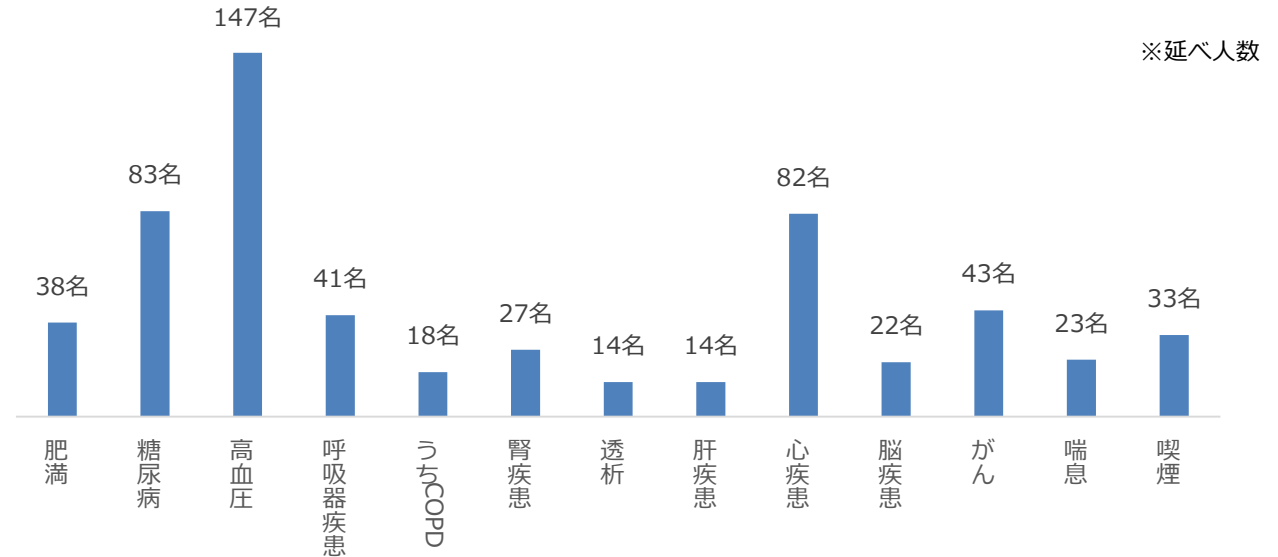
うち人工呼吸器： 6名
高流量酸素： 25名

第六波 肺炎患者の状況

令和4年2月20時点

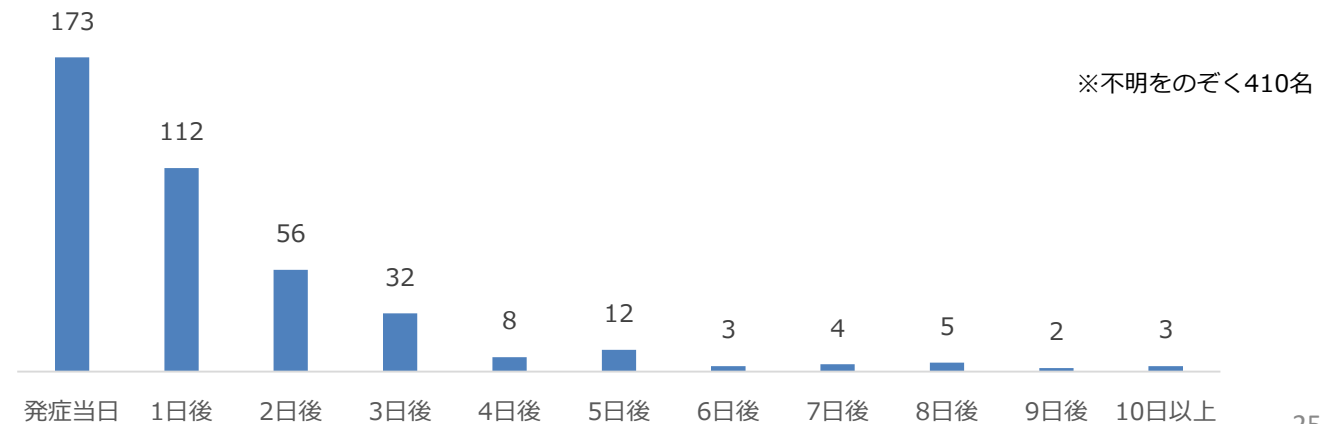
- 基礎疾患をもっている人が多く、特に、高血圧、糖尿病、心疾患、がん、呼吸器疾患、腎疾患が多かった。また、BMI 30以上の肥満、喫煙者にも多かったことは留意する。
- 発症から検体採取までが遅い事例もあり、早期受診が必要である。

基礎疾患の状況



発症～検体採取までの日数

5日以上かかった29名中
酸素投与が必要となったのは10名
(人工呼吸器1名、高流量酸素4名)

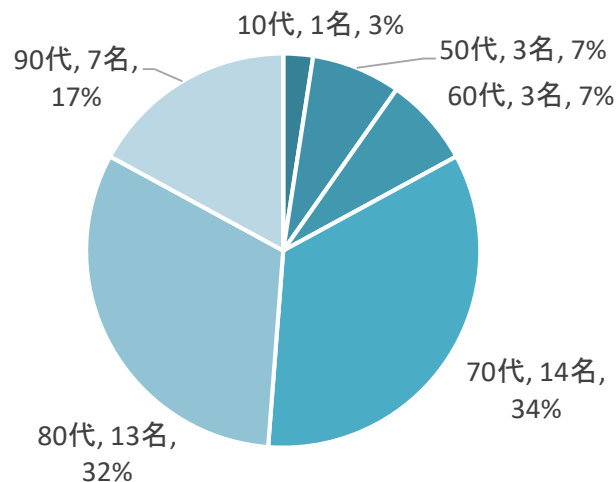


第六波における国基準相当重症者について

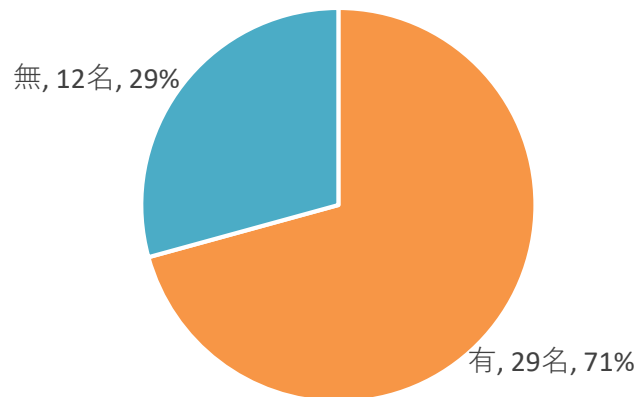
N=41名

- 高流量の酸素投与が必要な肺炎があり、I C U入室に相当したり、人工呼吸器装着をした重症者は、1名を除いて、50代以上で、特に、70代以上の高齢者に多い。
- 基礎疾患として高血圧、糖尿病、腎疾患、がん、呼吸器疾患、脳疾患、透析患者に多い。
- 第六波ではワクチン接種の効果が減弱により2回接種者でも重症化した。3回接種の者が3名いた。

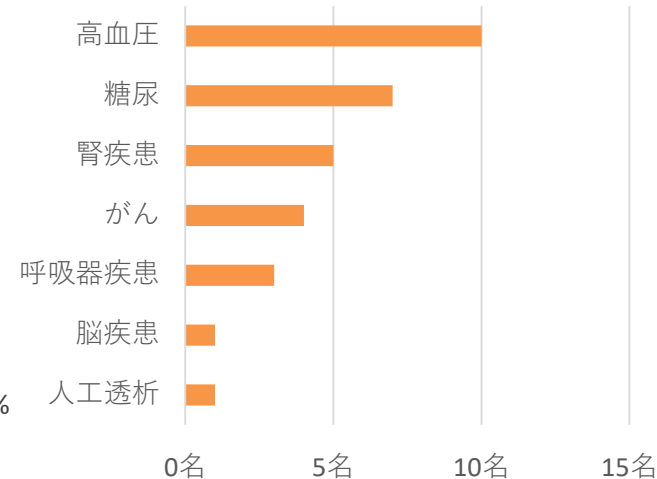
1. 年代



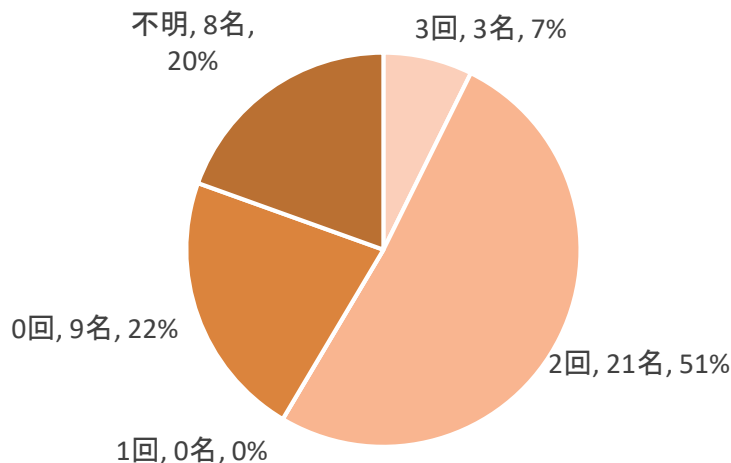
2. 基礎疾患



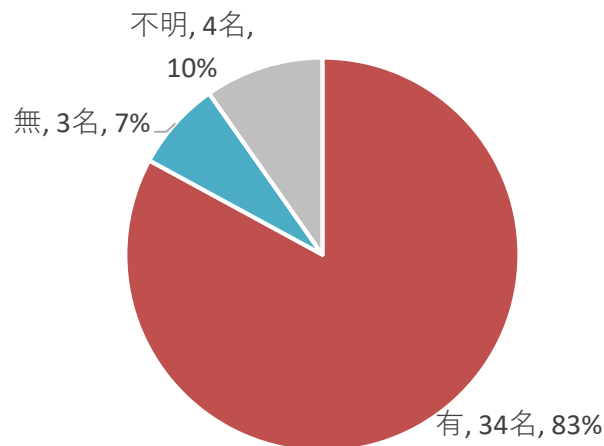
(重複を含む。)



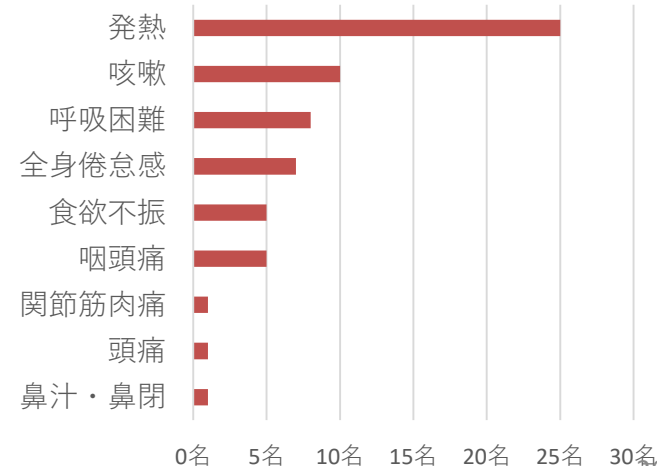
3. ワクチン接種回数



4. 陽性判明時症状



(重複を含む。)

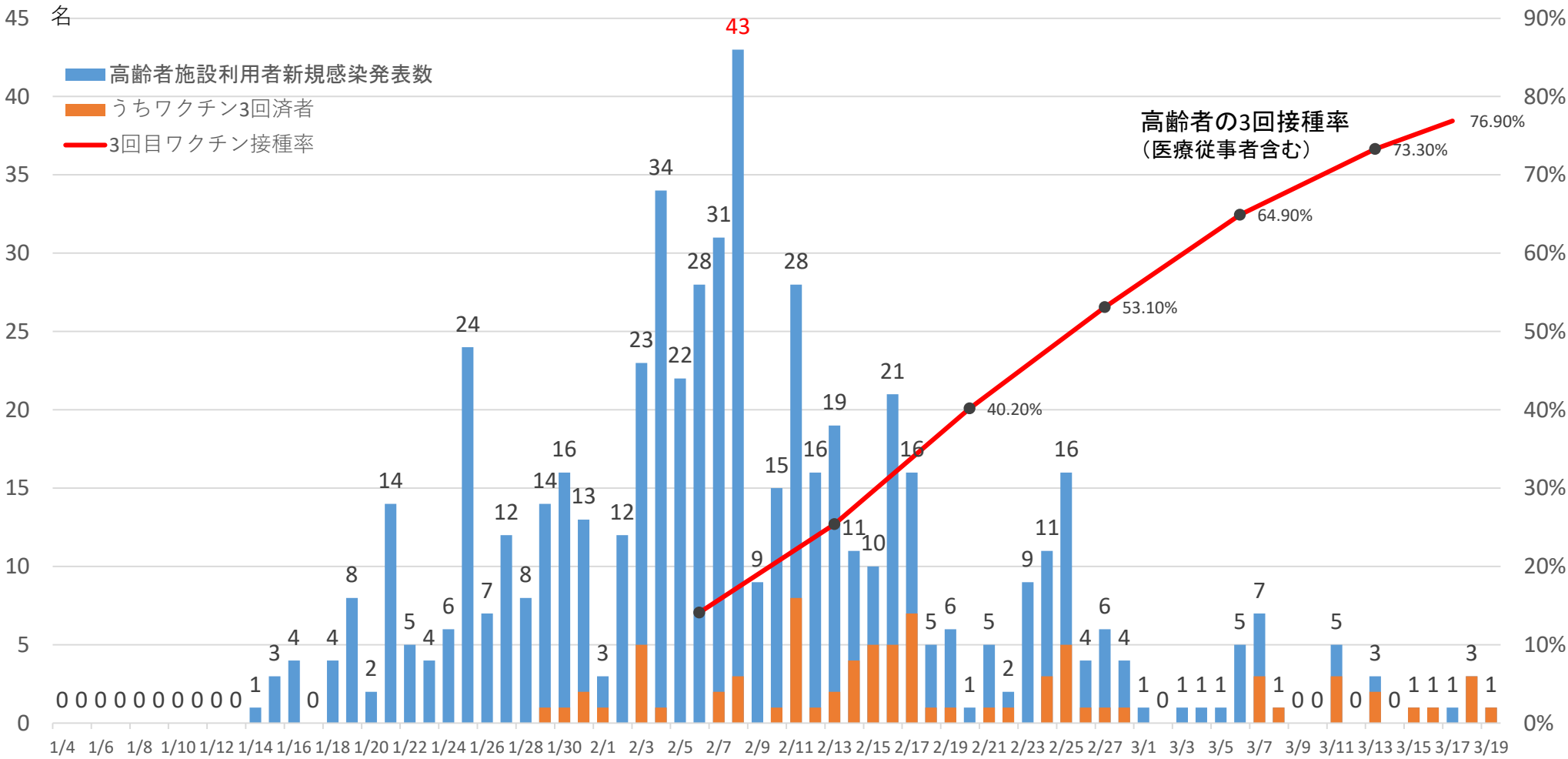


ワクチン3回接種陽性者

高齢者施設利用感染者数とワクチン3回接種者の推移（第六波）

令和4年3月19日時点

- 高齢者施設利用感染者数は2月初旬をピークに減少している。ワクチン3回接種が進んできたことも減少の要因となっていると思われる。
- ただし、3回ワクチン接種をしても完全に感染を防ぎきれないことから、ワクチン3回接種済者の感染がみられている。



発表 総数	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	
	2	4	13	4	8	21	45	34	93	117	149	157	157	122	196	269	232	275	323	308	257	303	347	490	595	448	471	318	486	597	456	455	552	452	400	559	496	547	519	421	426	317	436	402	498	435	312	311	267	326	404	226	314	273	294	199	290	273	231	232	275	221	172	203	204	219	199	162	198	158	199	175	176	176	162

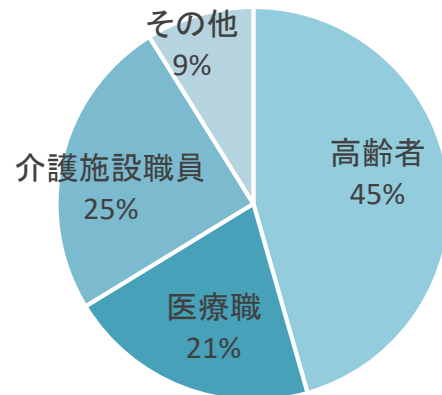
第六波におけるワクチン3回接種陽性者について

(R4.3.14現在)

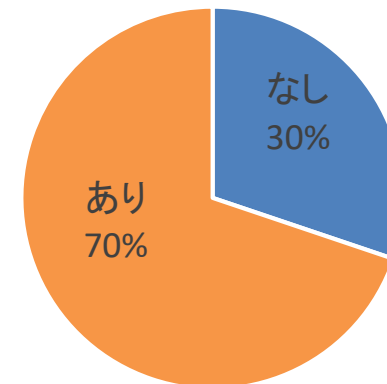
- 第六波のクラスター（92～252例目）における陽性者のうちワクチン3回接種陽性者は、クラスターの陽性者2,528人のうち169人（約7%）であった。
- ワクチン3回接種陽性者の陽性判明時症状は、発熱等の症状がある者が約70%であり、約30%は症状が無かった。
- なお、クラスターも含め、第六波の3月23日現在で確認できたワクチン3回接種陽性者817名のうち、酸素投与が必要な重症者は24名、うち国基準に相当する重症者は3名である。

1. クラスター事例のワクチン3回接種者

ワクチン3回接種者の種別(n=169)



陽性判明時の症状の有無(n=169)



2. 第六波のワクチン3回接種陽性者

R4.3.23現在におけるワクチン3回接種者の重症者の状況

3回接種者:817名、重症者:24名(うち国基準 3名)

男性:13名、女性:11名

年齢:70代:4名、80代:7名、90代:13名

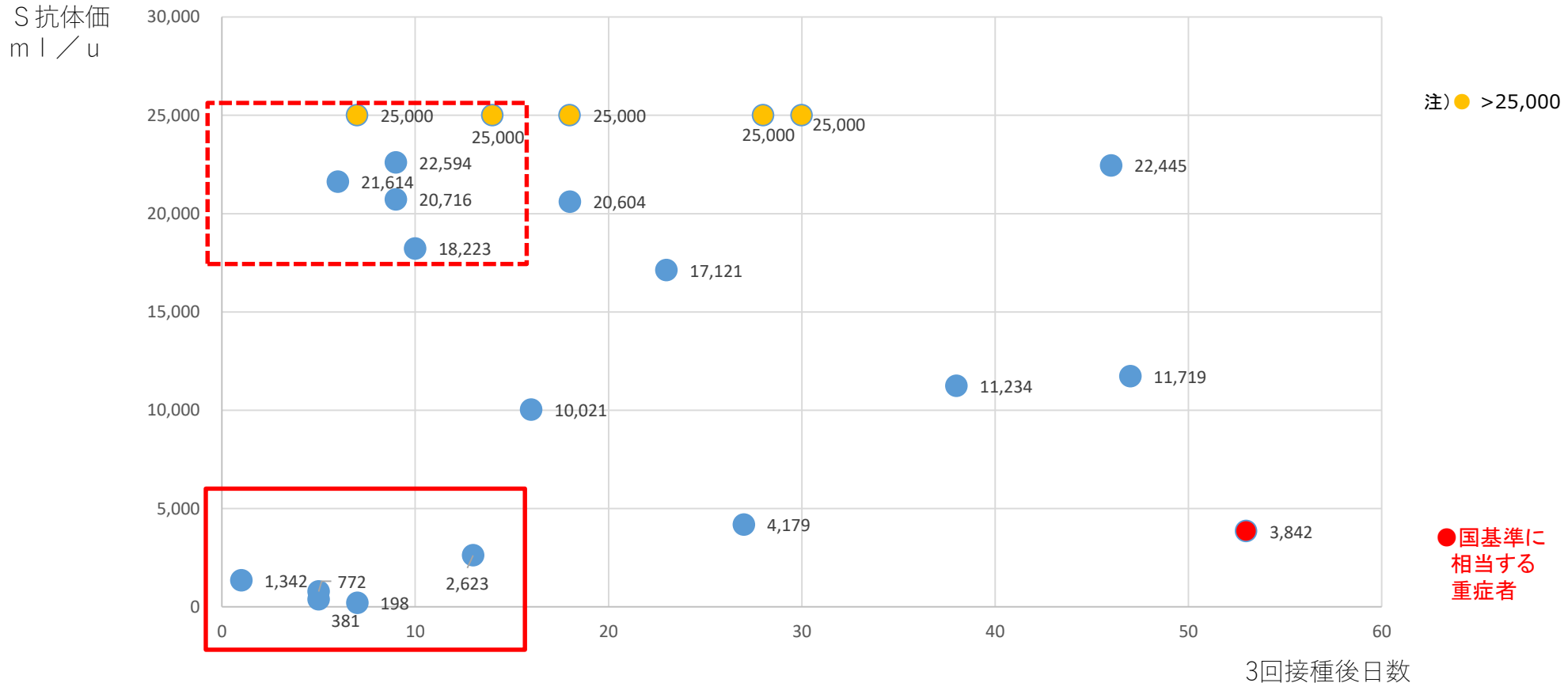
基礎疾患なし:1名、女性

第六波におけるワクチン3回接種陽性者について

(R4.3.14現在)

- 第六波において、ワクチン3回接種陽性者のS抗体値を県内公立病院の協力を得て測定した。
- ワクチン3回接種後、1週目の者はS抗体値が低い者が多かったが、1週目でも2万mI / u前後高い抗体値の者も多くいた。また、2週目以降では、ほとんどの者は1万mI / u以上の高い抗体値であった。
- この結果から、オミクロン株については、S抗体値が高くても感染は完全に防御するのは難しいと推定する。

ワクチン3回接種者の抗体価と接種後日数

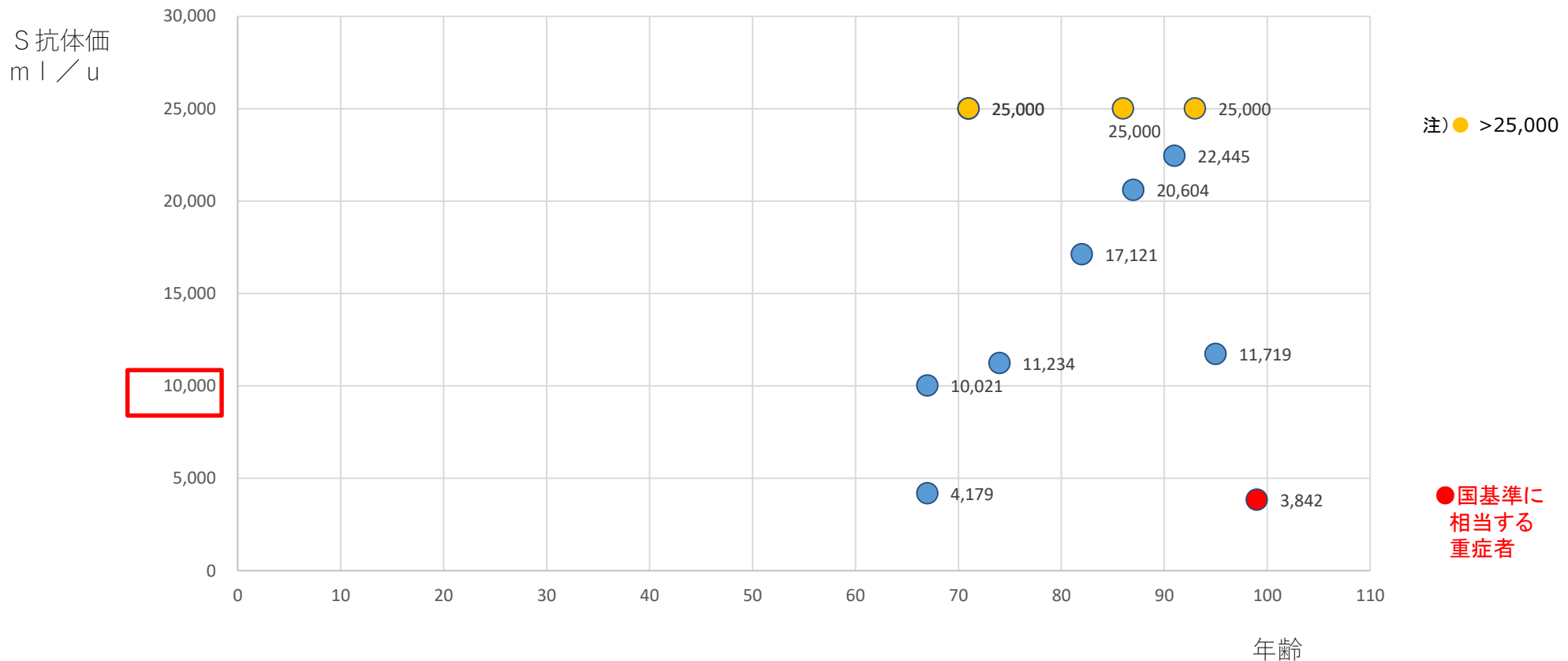


第六波におけるワクチン3回接種陽性者について

(R4.3.14現在)

- ワクチン3回接種後14日以上経過し者の年齢との関係を見た。
- 70代以上の高齢者も1万m l / u 以上の高いS抗体値を示した。
- 90歳代の高齢者は、他の者と比較するとS抗体値は低く、国基準に相当する重症となった。

ワクチン3回接種陽性者でワクチン接種後14日以上経過後抗体価と年齢

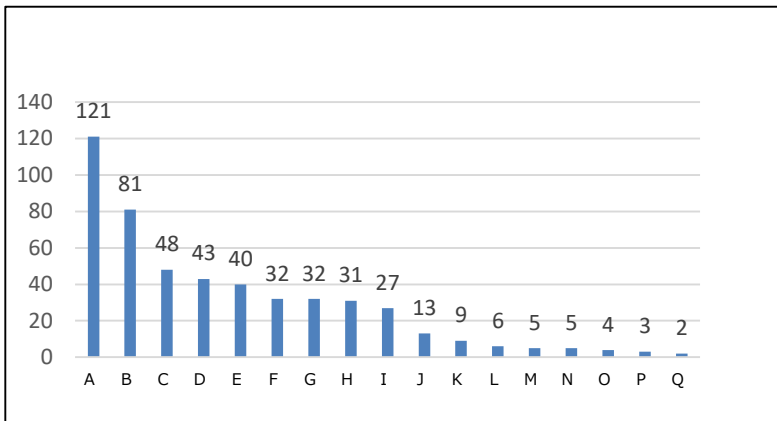


中和抗体療法について

第六波における中和抗体療法について

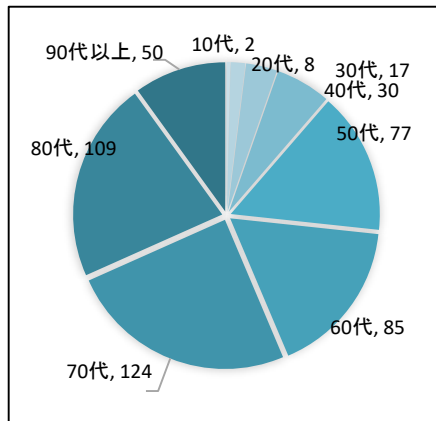
- 本県では、令和4年1月7日から陽性者に使用開始された。
- 令和4年3月19日までに退院した陽性者で中和抗体薬（ソトロビマブ）を投与された502例について分析した。

各医療機関の投与状況



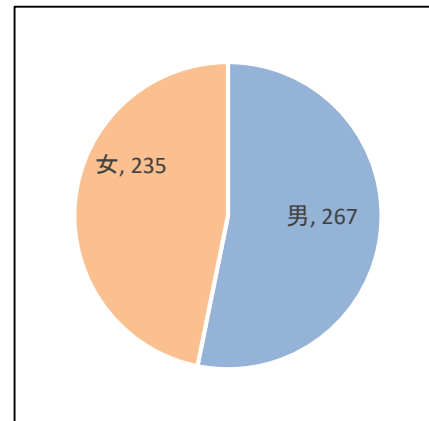
投与病院数 = 17

年齢

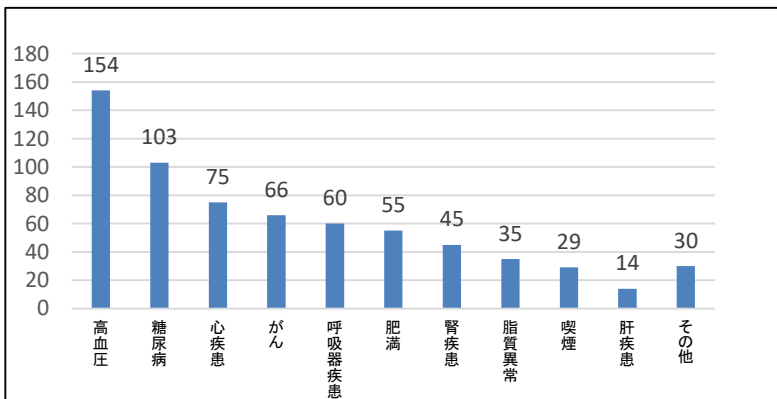


平均 = 69.8歳

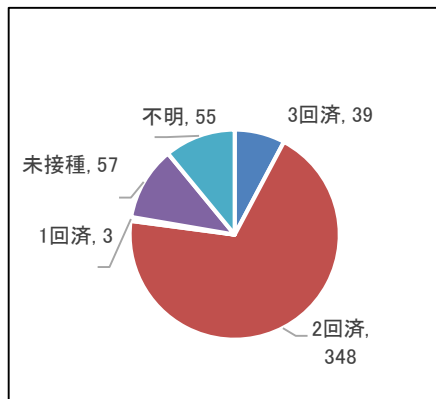
性別



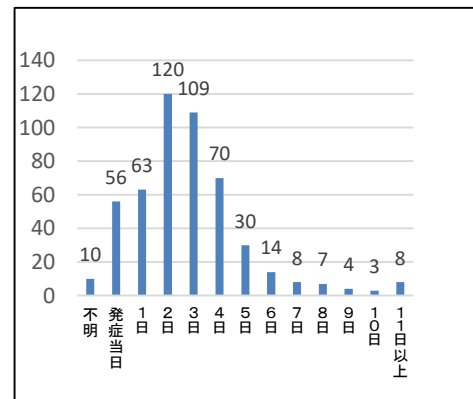
リスク要因



ワクチン接種歴



発症から投与までの日数

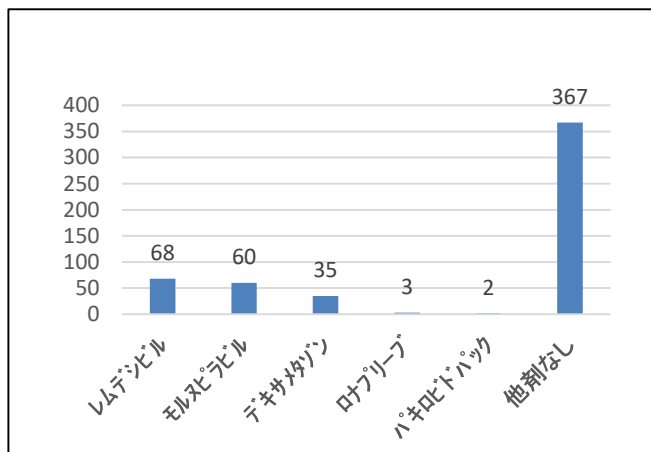


平均 = 2.9日

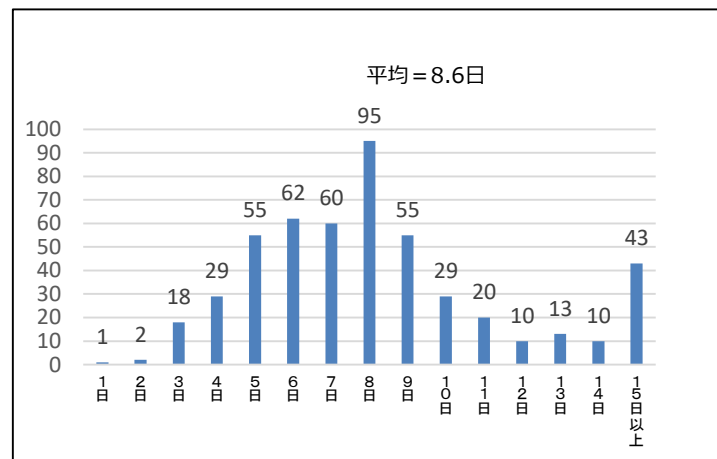
第六波における中和抗体療法について

- 第六波は、オミクロン株が主流であり、ロナプリーブは推奨されないために、ソトロビマブが投与された。
- 投与後の転帰は、第五波とほぼ同程度であり、重症化防止に一定の効果があったが、オミクロン株ではワクチン2回接種の効果が減弱したことから、ワクチン未接種者と2回接種者が重症化し、高齢者が死亡した。

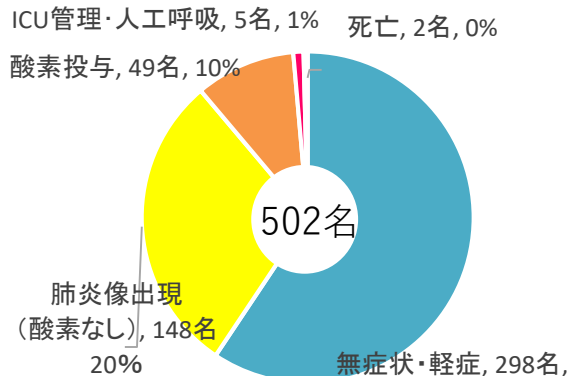
他剤の使用状況



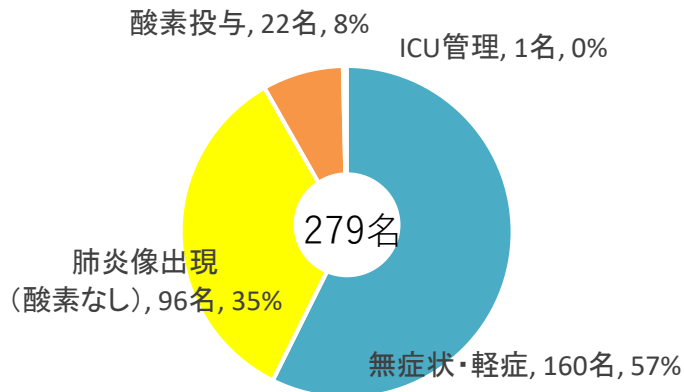
入院期間



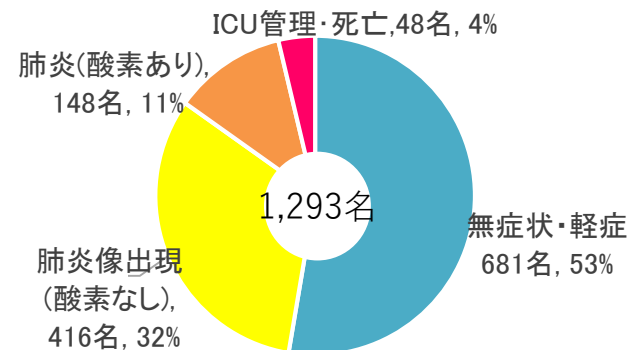
【第六波の転帰(ソトロビマブ投与)】



【第五波の転帰(ロナプリーブ投与)】



【第四波の転帰】



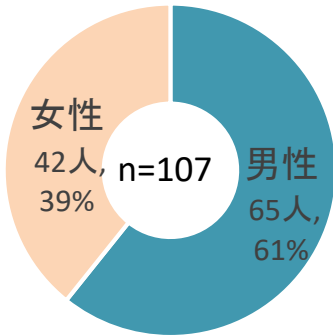
死亡について

死亡（間接死因含む）の状況

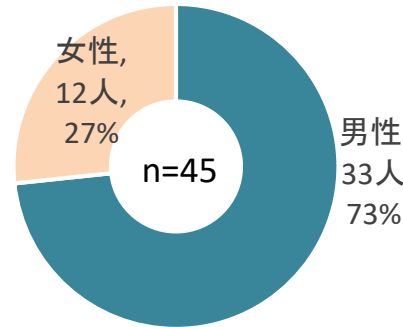
令和4年3月14日発表まで

- これまでの死亡者107名のうち男性の方が多く、70代以上の高齢者は約94%である。
- 第三波、第四波では、高齢者の感染者が増加したことにより、死亡者も増加したが、ワクチン接種による効果と考えられるが、第五波では、死亡者は減少した。
- 第六波では、男性が多く、90代以上の高齢者が多かった。しかし、爆発的な感染拡大が起こったが、死亡者の割合はむしろ減少した。

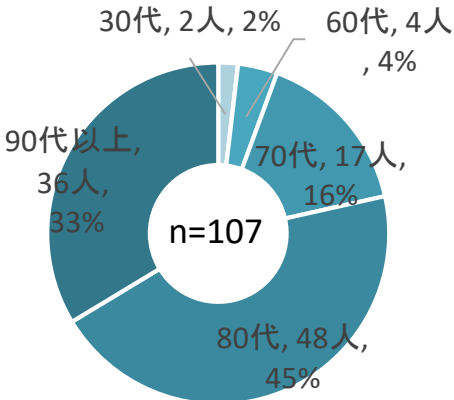
性別(全体)



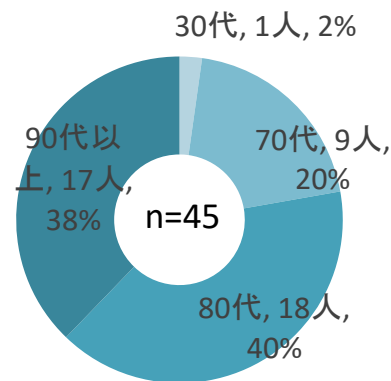
性別(第六波)



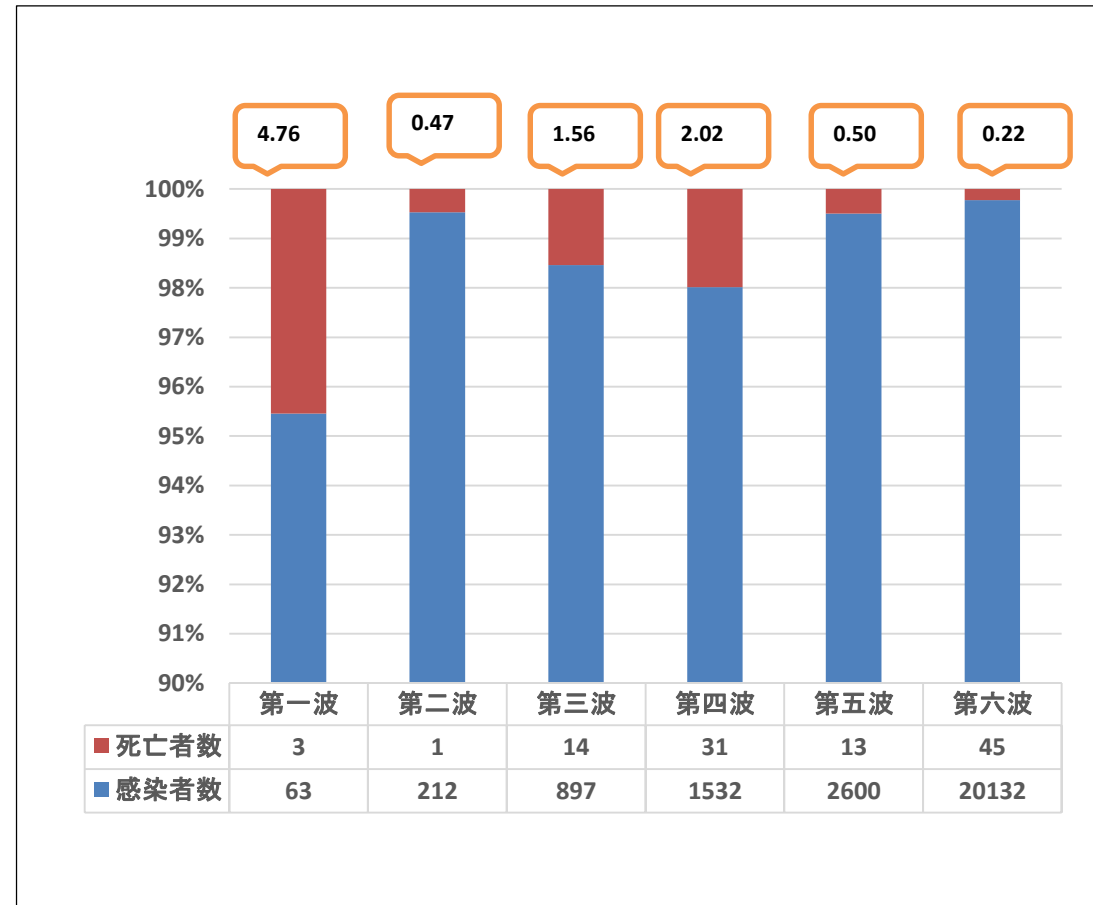
年齢別(全体)



年齢別(第六波)



波別の致死率

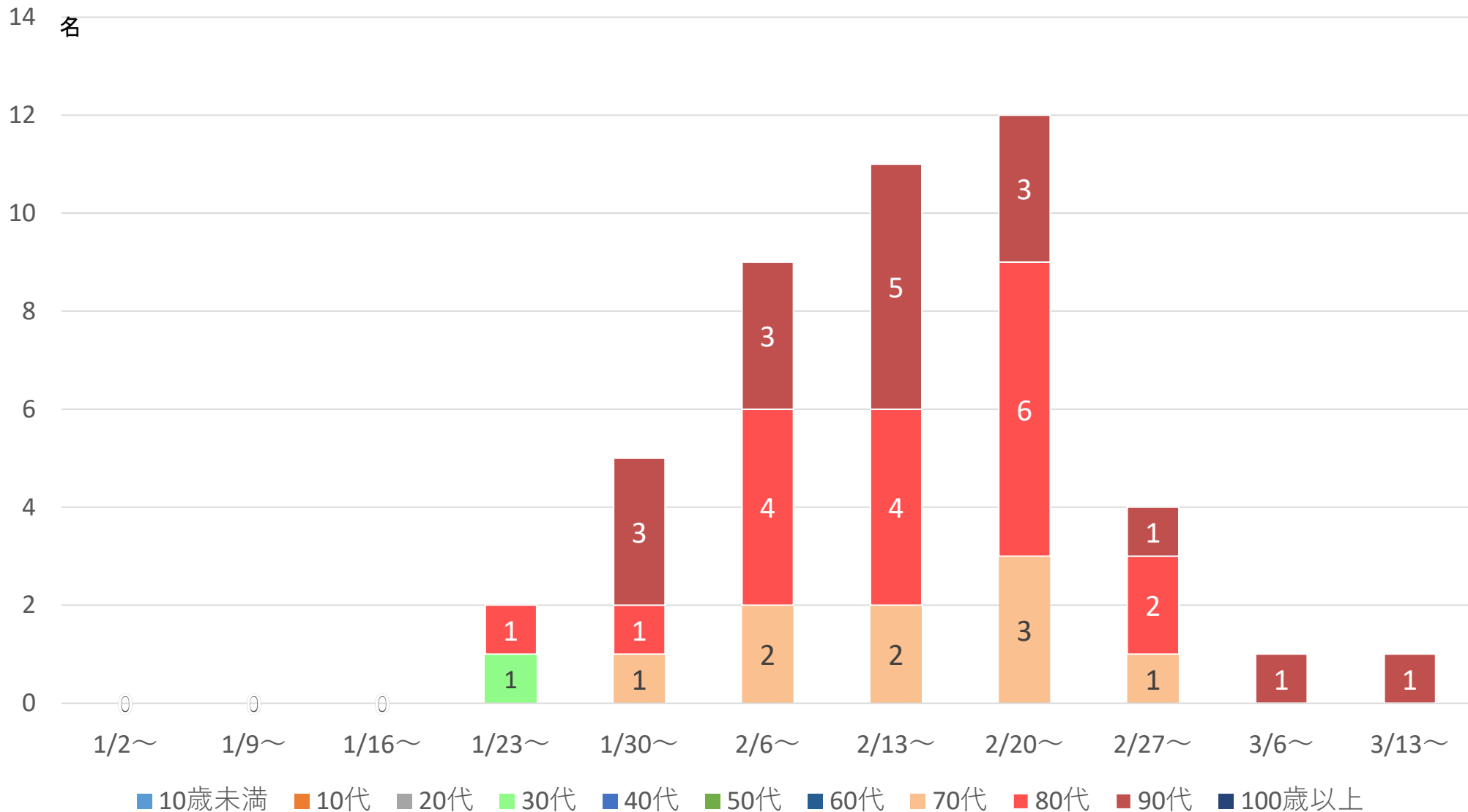


死亡者の年代構成の推移（第六波）

令和4年3月14日時点

※日付は死亡発表日による。

- 第六波における死亡者45名のうち、30代が1名いたが、その他は70代以上の高齢者であり、80代が最も多かった。
- 死亡者のピークは2月20日の週であった。

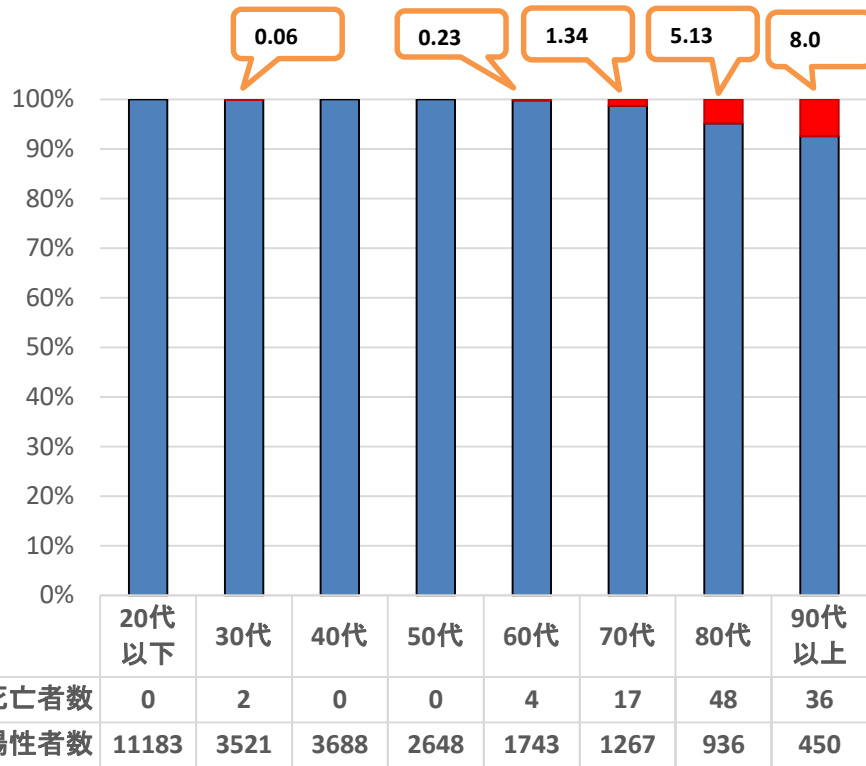


死亡（間接死因含む）の状況

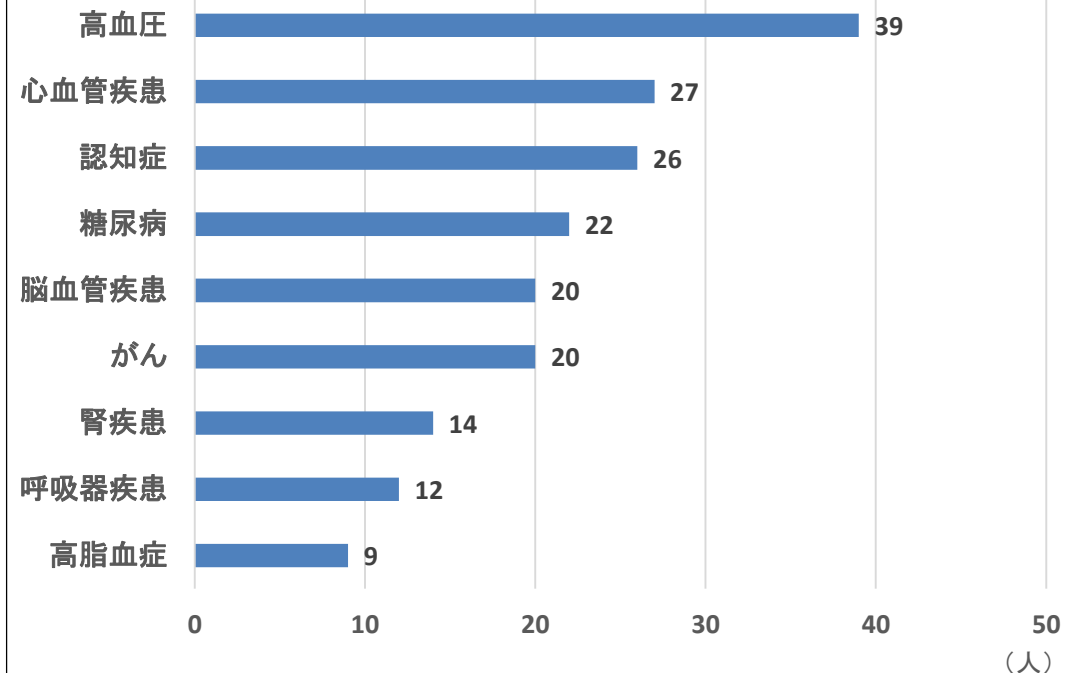
令和4年3月14日発表まで

- これまでの死亡者107名のうちの年代別死亡割合は、60代から増えている。特に、80代以上の高齢者は致死率が高かった。
- 死亡者の主な基礎疾患は、高血圧、心血管疾患、糖尿病、脳血管疾患、呼吸器疾患、がん、腎疾患が多かった。高齢者のため、認知症も多かった。
- 基礎疾患のない死亡者は2名あった。

年代別の致死率



主な基礎疾患（重複あり）



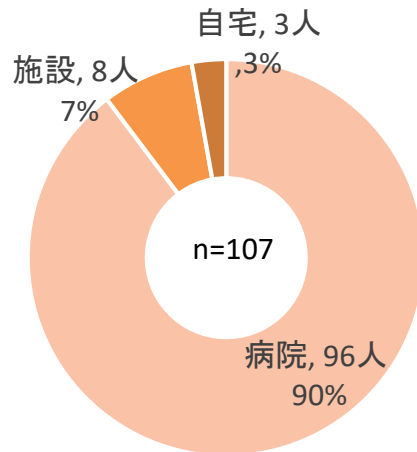
死亡（間接死因含む）の状況

令和4年3月14日発表まで

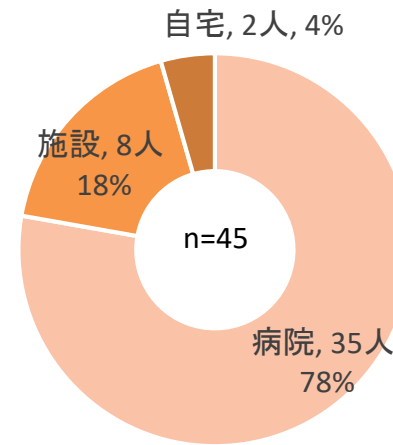
- これまでの死亡者107名のうちの死亡された場所は、病院が最も多く、次いで施設、自宅がわずかにあった。
- 第六波では、高齢者施設で多くのクラスターが発生したことも影響して、施設内での死亡者が8例あった。また、自宅で高齢者が家族に見守られながら亡くなられた方もいた。
- ワクチン接種について、高齢者の接種が進んだ第五波と第六波を比較すると、第六波の方がワクチン接種者が多かった。

死亡場所

死亡された場所（全体）

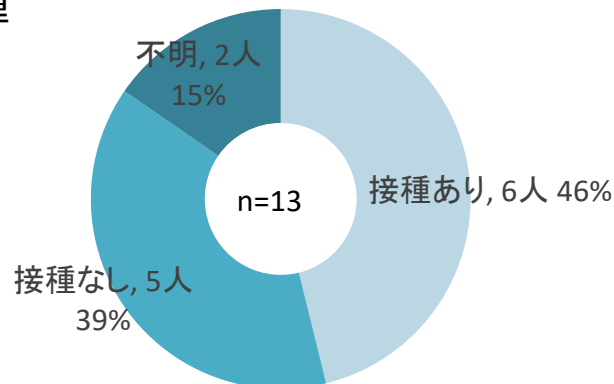


死亡された場所（第6波）

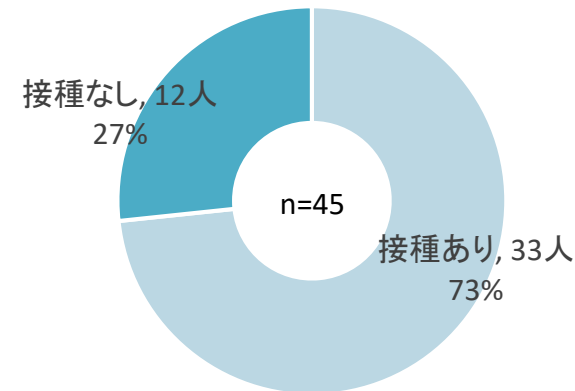


ワクチン接種

ワクチン接種歴の有無（第5波）

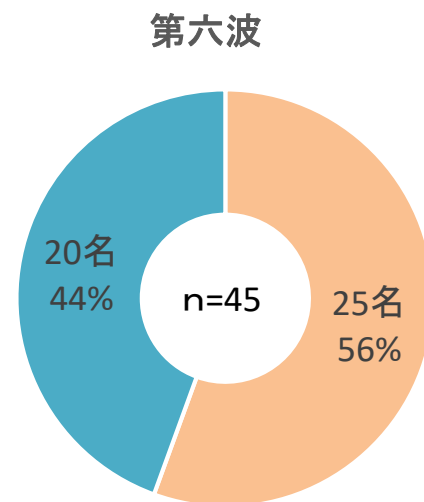
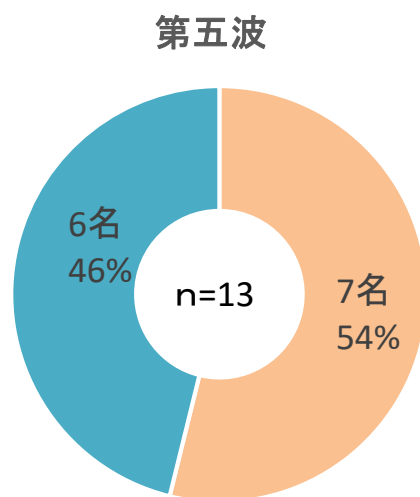
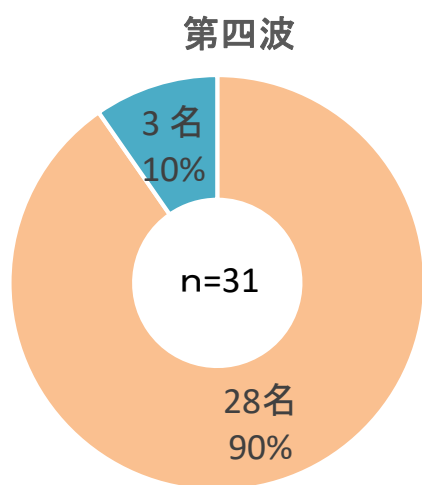
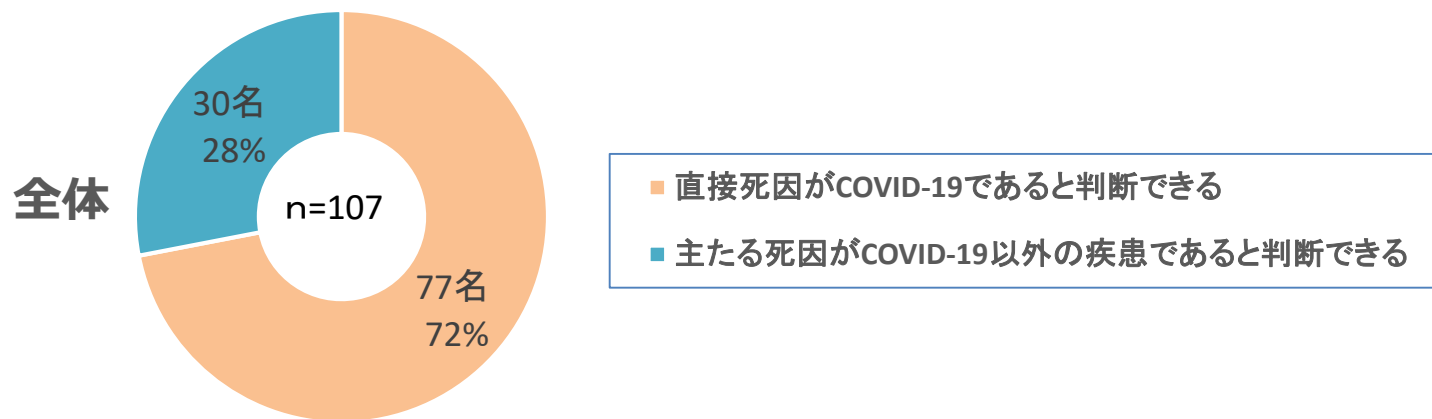


ワクチン接種歴の有無（第6波）



COVID-19死亡者の死因内訳 (R2.2~R4.3.14)

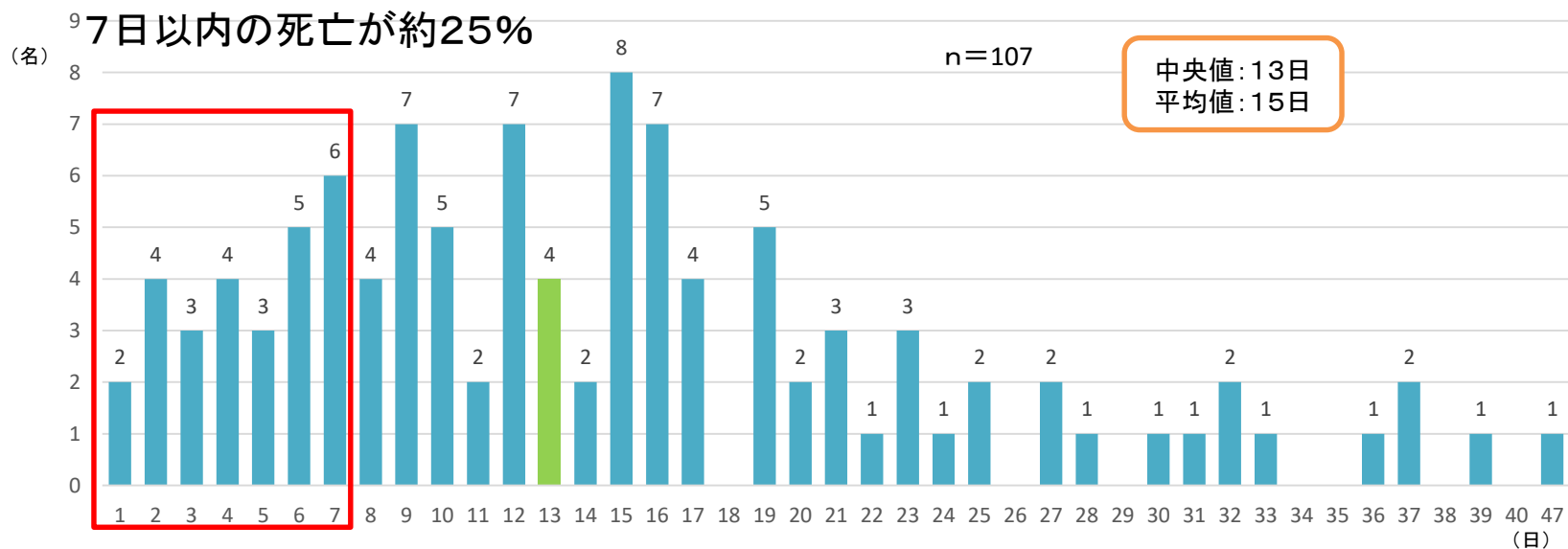
- 死因について、主たる死因が新型コロナウイルス感染が原因によると思われるもの（直接死因）とそれ以外（間接死因）について見ると、ワクチン接種がまだない第四波では、直接死因がほとんどであったが、第五波と第六波では、ワクチン接種が進んだ影響と思われるが、直接死因は減少した。
- ただ、第六波では、オミクロン株の流行により、ワクチン2回接種者高齢者に感染し、基礎疾患の悪化、併発疾患による死亡例が増加した。



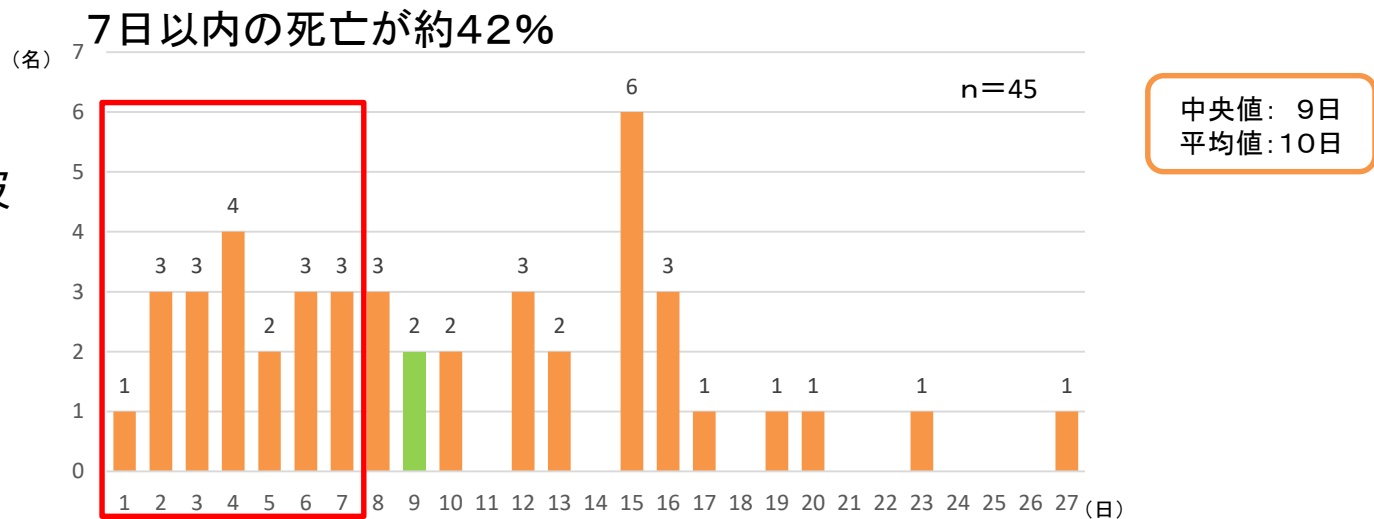
発症（陽性判明）から死亡するまでの日数

○ これまでの死亡者は、発症（無症状者は陽性判明時）から7日以内の死亡は25%であったが、第六波では、42%と高くなった。高齢者が基礎疾患の悪化などにより急変し、死亡された事例が多かった。

全体



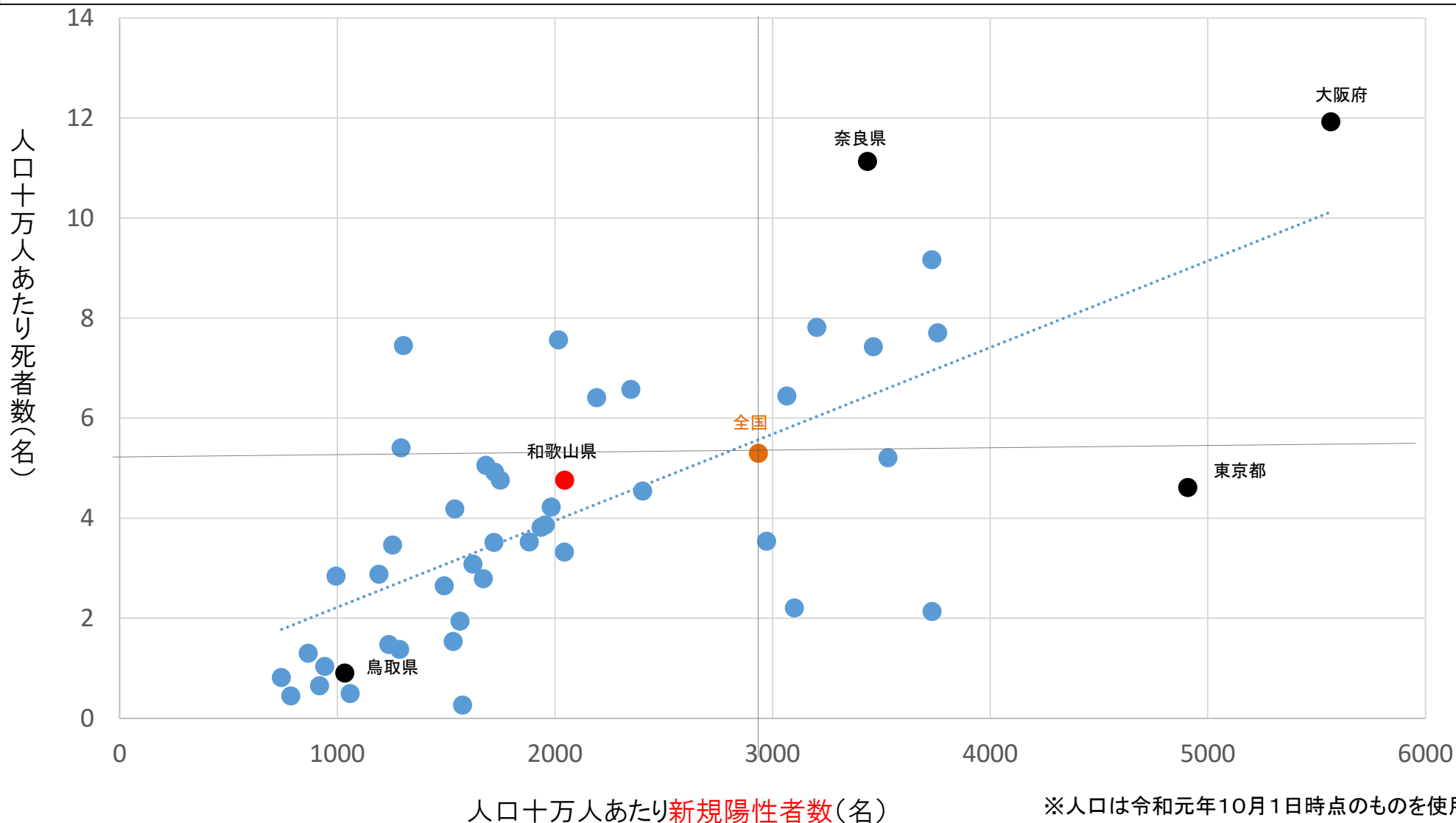
第六波



第六波の新型コロナウイルス感染症新規陽性者数と死者数

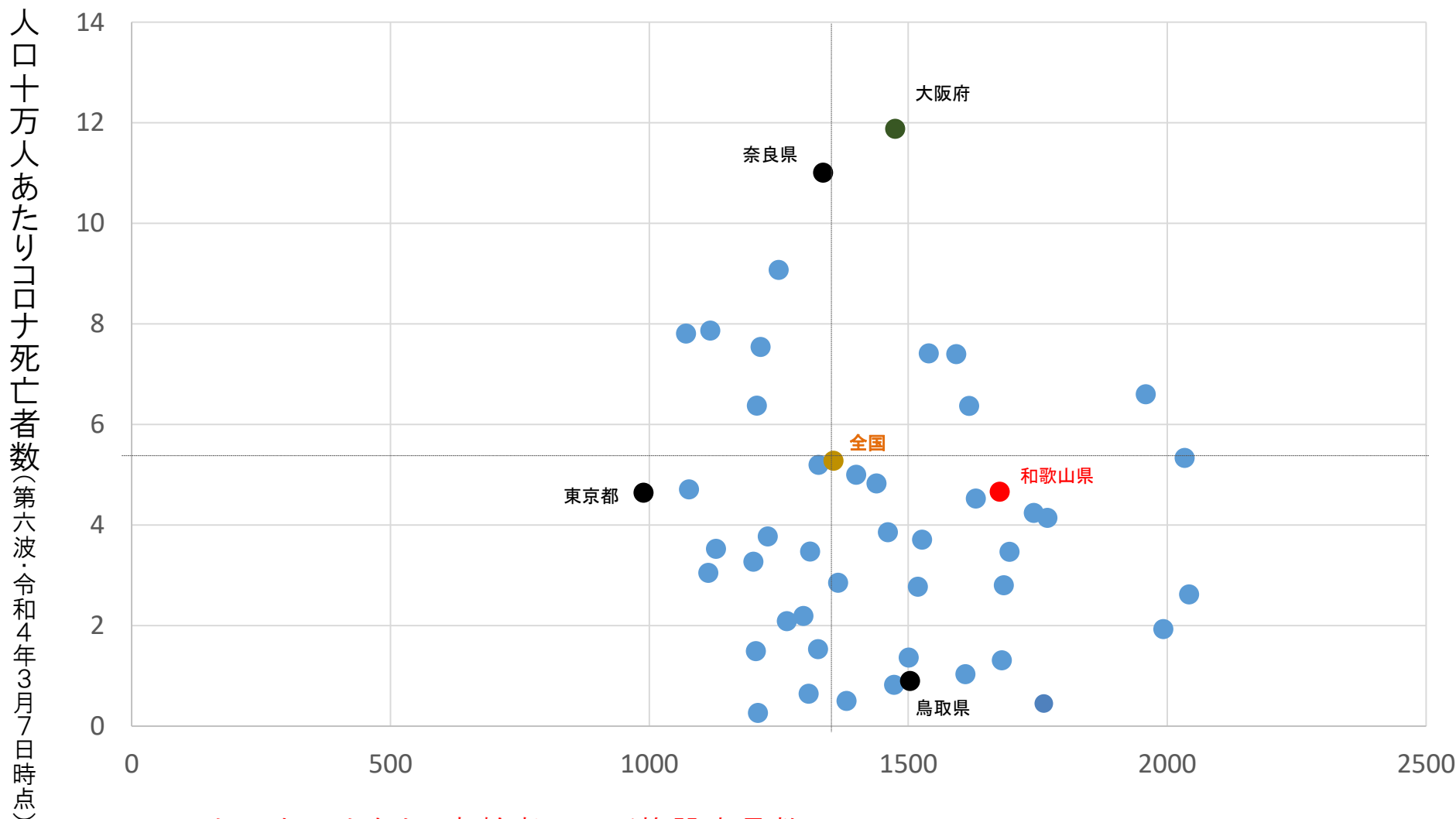
(令和4年1月4日～3月7日の数値による)

- 全国の各府県の死亡率と人口10万人あたりの高齢者の入所施設定員数を見てみると、本県の死亡率は、ほぼ東京と同じだが、人口10万人あたりの新規感染者数は少ない。感染者のうち高齢者が多いことが影響していると思われる。



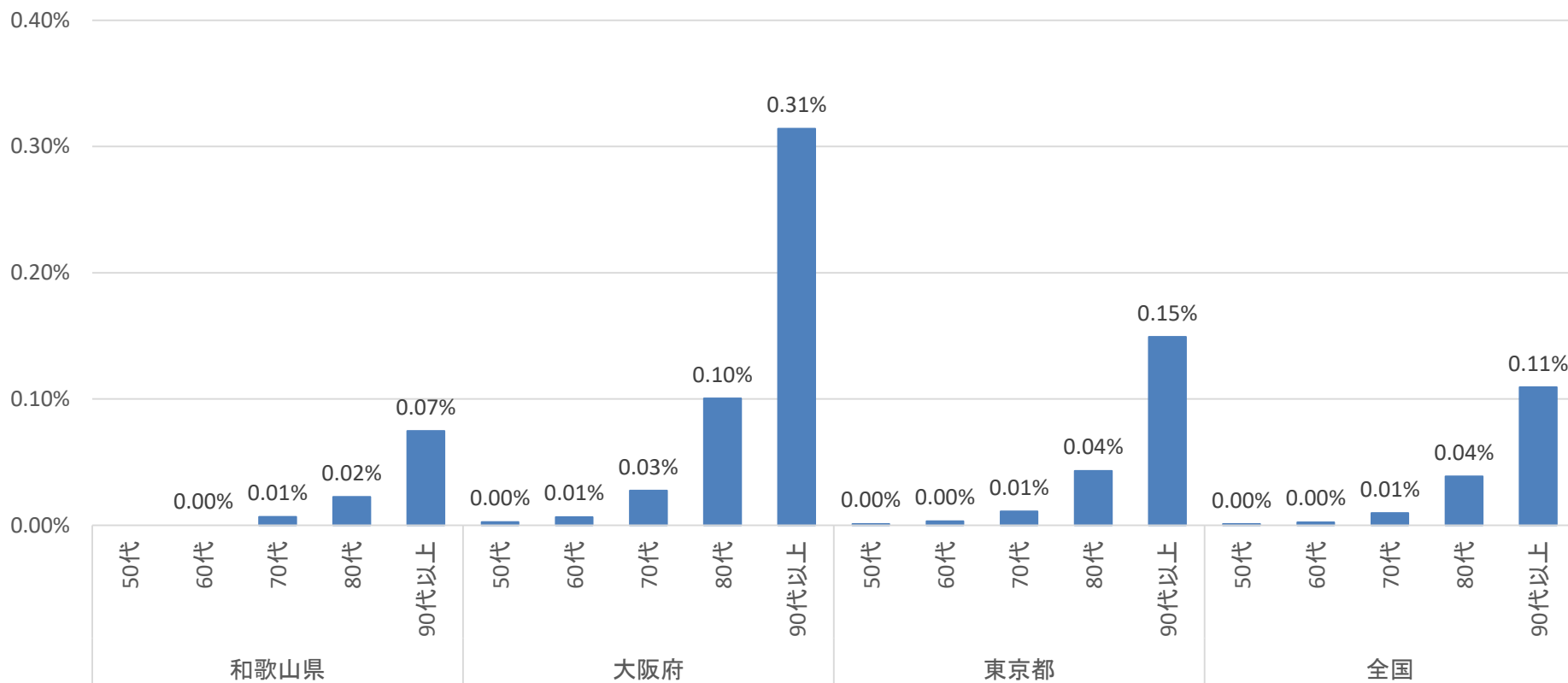
第六波のコロナ関連死者数と高齢者施設の定員数

○ 全国の各府県の死亡率と人口10万人あたりの高齢者の入所施設定員数を見てみると、本県の死亡率は、ほぼ東京と同じだが、人口10万人あたりの高齢者の入所施設定員数が多いことが死亡率に影響を及ぼしていると思われる。



人口十万人あたり高齢者の入所施設定員数(令和3年4月1日現在)

年代別 死亡率 (50代以上)



**年齢調整
死亡率**
(人口10万対)

1.00

4.56

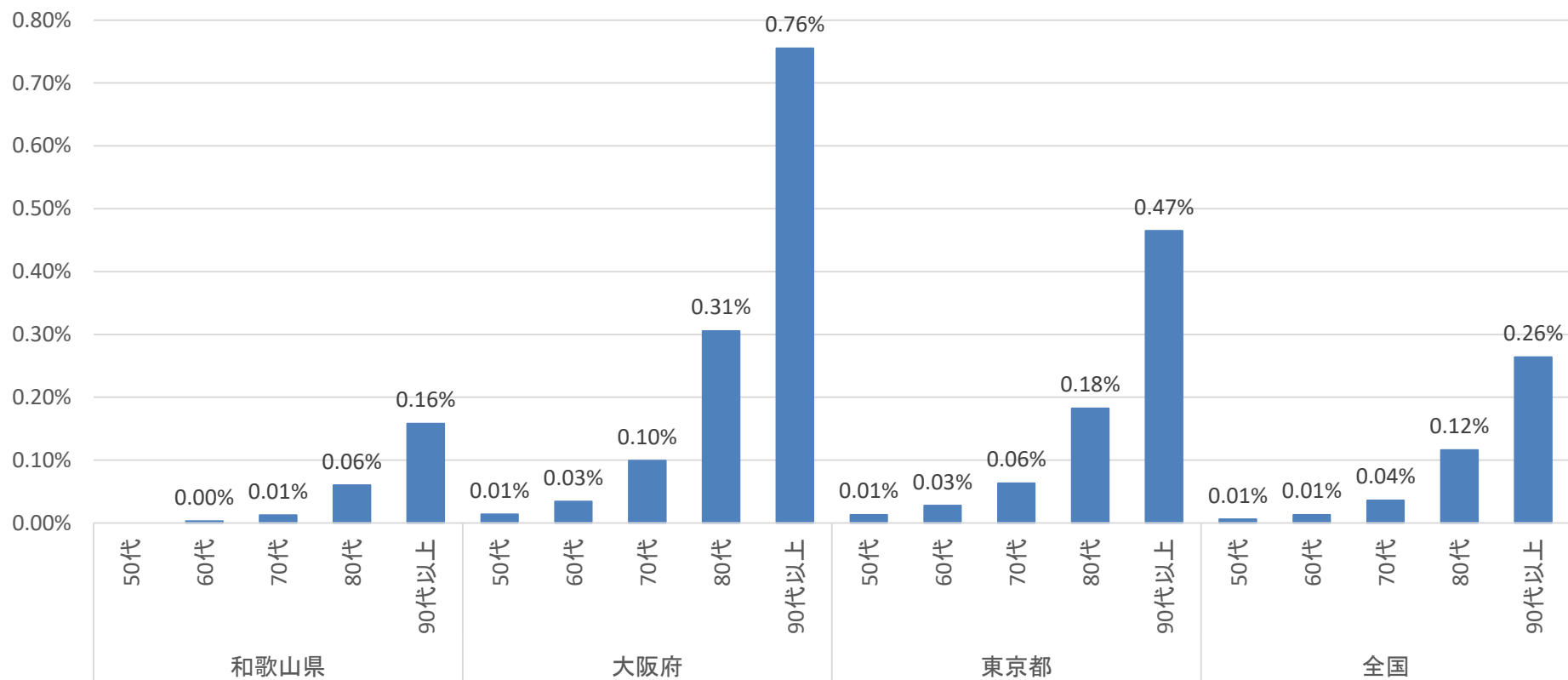
2.04

1.74

※1/5～3/22。人口はR2国勢調査。年齢調整は昭和60年モデル人口を使用
 死亡者数は、厚生労働省「データからわかる－新型コロナウイルス感染症情報－」から。年齢不詳データを除く。和歌山県は本県データより₄₁

新型コロナ 死亡率の比較・これまでの累計

年代別 死亡率 (50代以上)



年齢調整 死亡率 (人口10万対)

2.49

16.54

11.69

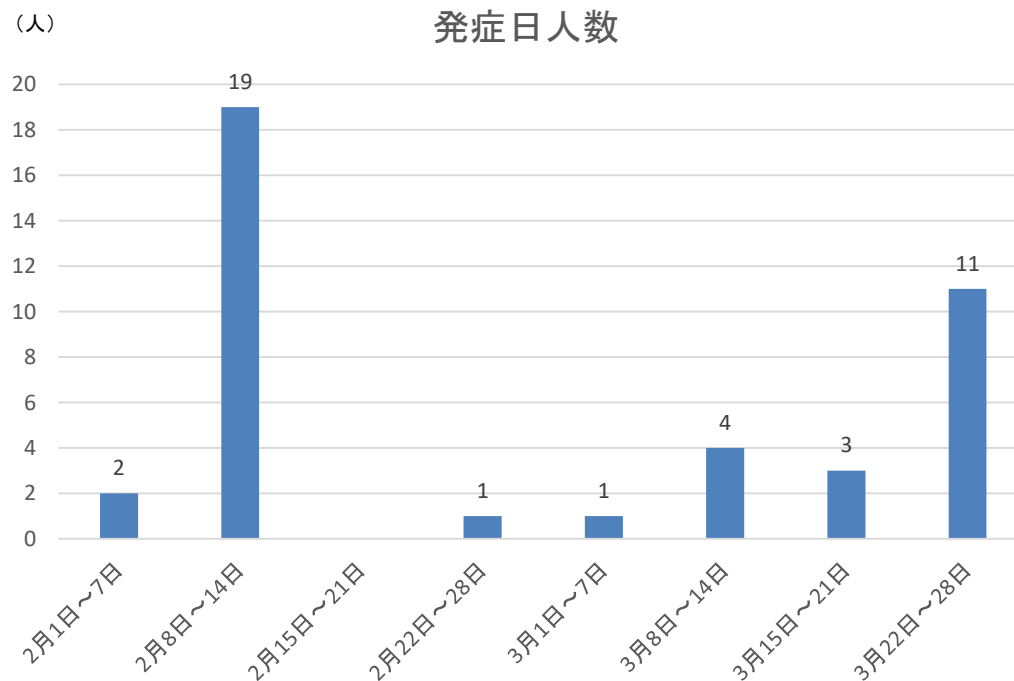
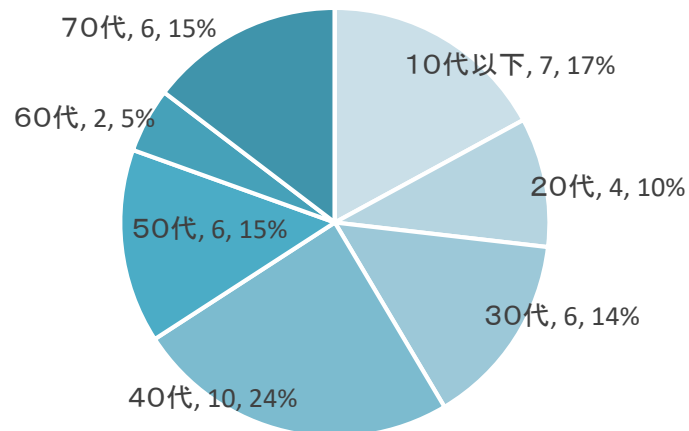
6.41

※R4.3.22までの累計。人口はR2国勢調査。年齢調整は昭和60年モデル人口を使用。
死亡者数は、厚生労働省「データからわかる－新型コロナウイルス感染症情報－」から。年齢不詳データを除く。和歌山県は本県データより⁴²

オミクロンBA.2患者（疑い含む） 41名の状況

令和4年3月27日現在

- 令和3年3月27日時点で確認されたBA.2の感染者は、疑い例も含めて41名で、うち確定例は9名であった。
- 肺炎の併発を確認した者は2名であった。
- 本県では、2月初旬の発症例から確認されたが、3月以降感染が広がり始めているのではないかと推察する。今後もクラスター事例等に積極的にスクリーニング検査とゲノム解析を行い、動向を注視する。



※2月初旬の事例はクラスターとその関係者

第六波の特徴・まとめ

- オミクロン株を主流とする感染により、これまでにない急激な感染爆発が起こった。
- ワクチン2回接種による感染・発病・重症化予防効果は、オミクロン株ではこれまでと比較して低下した。
- 小児と高齢者の感染が多く、クラスターが多発し、クラスターの規模もこれまで以上に大きくなった。
- 妊婦、透析の感染者も多くなった。また、再感染例も多かった。
- オミクロン株による感染では、ほとんどが発熱、咽頭痛、咳、全身倦怠感が発症初期に強いものの数日後に軽減し、肺炎の併発はデルタ株と比較して少なかった。
- ただし、受診の遅れや基礎疾患のある者では、肺炎を併発し、重症化する者がいること、急激に悪化する者がいることは留意するべきである。また、幼児の肺炎患者を数例確認した。
- 全員入院からトリアージ入院、宿泊療養、自宅療養になったことから、救急事例が増加した。
- ワクチン3回接種は、重症化の防止には効果があると思われるが、感染・発病予防効果はオミクロン株には完全でないことを十分認識して感染予防対策の継続実施が重要である。
- 抗体療法は、早期治療で実施すれば、重症化防止に一定の効果があると思われる。
- 第六波では、これまでのワクチン効果が低下したこと、高齢者が多かったことから死亡者は多くなった。特に、70代以上の基礎疾患のある高齢者の死亡が多く、発症後1週間以内に、基礎疾患の悪化や脱水などが影響し、死亡する者が多くなった。
- B A 2については、スクリーニング検査を積極的に行い、動向を注視していく。

保健所体制の強化

令和2年11月～

第六波

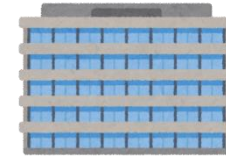
※R3年度実績(2月末時点)



県内医療機関
検体採取支援(延べ96人)



県職員(別途対応:和歌山市職員)
(出先機関・他の保健所)



(専門職(保健師等)延べ68人)

指示
調整

応援

応援



和歌山県コールセンター
24時間対応(6人体制)

県立・市保健所

契約

協定



※全市町村



管轄保健所内市町村
(延べ235人)

契約

契約

第六波



患者搬送
及び



検体検査
(委託)

- ◆ 感染者・感染源疫学調査
- ◆ 濃厚接触者の特定・健康観察
- ◆ PCR行政検査検体採取
- ◆ 入院医療機関との連絡調整
- ◆ 患者搬送及び検体運搬
- ◆ 感染拡大防止に必要な業務



和歌山県看護協会
(延べ1,287人)

早期治療体制

【外来】

登録医療機関

375
(3月2日現在)



※経口抗ウイルス剤投与については
オンライン診療等で実施(R4.1.25～)

往診(中和抗体療法を含む治療)



【往診】

登録医療機関

109
(3月8日現在)



訪問看護事業所

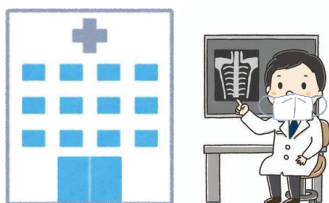


30事業所
(3月25日現在)

【入院】

コロナ入院病院

22病院
(最大630床)



高齢者施設
・
在宅



- **感染拡大防止 …… 早期発見と早期介入**
- **早期治療による重症化防止**
- **ワクチン接種による重症化防止**
- **基本的な感染予防対策の継続**